



株式会社イルグルム

東証グロース：3690

2025年 9月期 第1四半期決算説明資料

本決算発表時点では非開示※としていた 通期業績予想および株主還元予想を開示

通期業績予想

コマース領域が牽引し
2桁の増収増益を見込む

- ✓ 売上高 : **48**億円(前期比 + **32.0%**)
- ✓ 営業利益 : **2**億円(同 + **21.6%**)

株主還元予想

- ✓ 期末配当金 : **7.9円**に増配
(連結株主資本配当率(DOE) 2.5%
での期末一括配当の方針を継続)
- ✓ 株主優待 : 100株以上の株主に対し、
Amazonギフト券1,000円分
年2回配布を継続

詳細はP.53-54参照

※ 当1Q~のルビー・グループの連結開始に伴い、会計方針の調整および会計処理の精査に時間を要したため

時価総額向上に向けた取組み

2024年12月13日に『上場維持基準への適合に向けた計画』でも公表しました通り、グロース市場の上場維持基準となる時価総額40億円に対して、当社の時価総額は基準に達していないため、時価総額向上に向けた取組みを強化してまいります。

当社時価総額

2025年1月末時点

37 億円

目標時価総額

グロース市場の上場維持基準

40 億円超

計画期間

**2025年
9月末まで**

取組み内容

- ✔ **事業成長の加速**：グループ方針・成長戦略に関しては、当資料の③中期経営方針『VISION2027』および④サービス概要・戦略に記載しておりますので、そちらをご覧ください。
- ✔ **IR活動の強化**：これまで以上にIR活動および広報活動において、当社理解を深めていただくための情報発信に積極的に取り組んでまいります。また、時価総額向上にとって大きな課題と認識しております新規株主の増加においては、初めて当社を知っていただく投資家の方にもわかりやすいIR資料を目指し、当資料より基本的な情報を追加する形にリニューアルいたしました。
- ✔ **株主還元の継続**：当社を支援してくださる株主の皆様へ、配当および株主優待の実施を続けてまいります。

コマース事業における領域の統合

ルビー・グループの子会社化による垂直統合モデルのサービス拡充に伴い
2025年9月期1Qより領域を統合



目次

1	事業概要	P.06
2	業績・トピック	P.13
3	中期経営方針『VISION2027』	P.26
4	サービス概要・戦略	P.36
5	業績予想・株主還元	P.52
	補足資料	P.55

1

事業概要



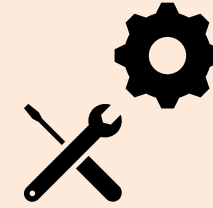
コーポレート・スローガン

未知に、道を。



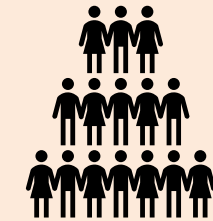
それぞれの企業が独自の価値とともに発展できる社会。
私たちはそのまだ見ぬ理想の世界をYRGLMと名付けました。
まだこの世に存在しない未来像を示すために、既存の言葉に由来を
持たない「**意味を持たない文字列**」を語源としました。
どこにもない企業を目指すために選んだ、どこにもない名前です。

当社の強み



創造力

広告効果測定や
ECオープンソースの
可能性をいち早く発見し、
プロダクトを開発



組織力

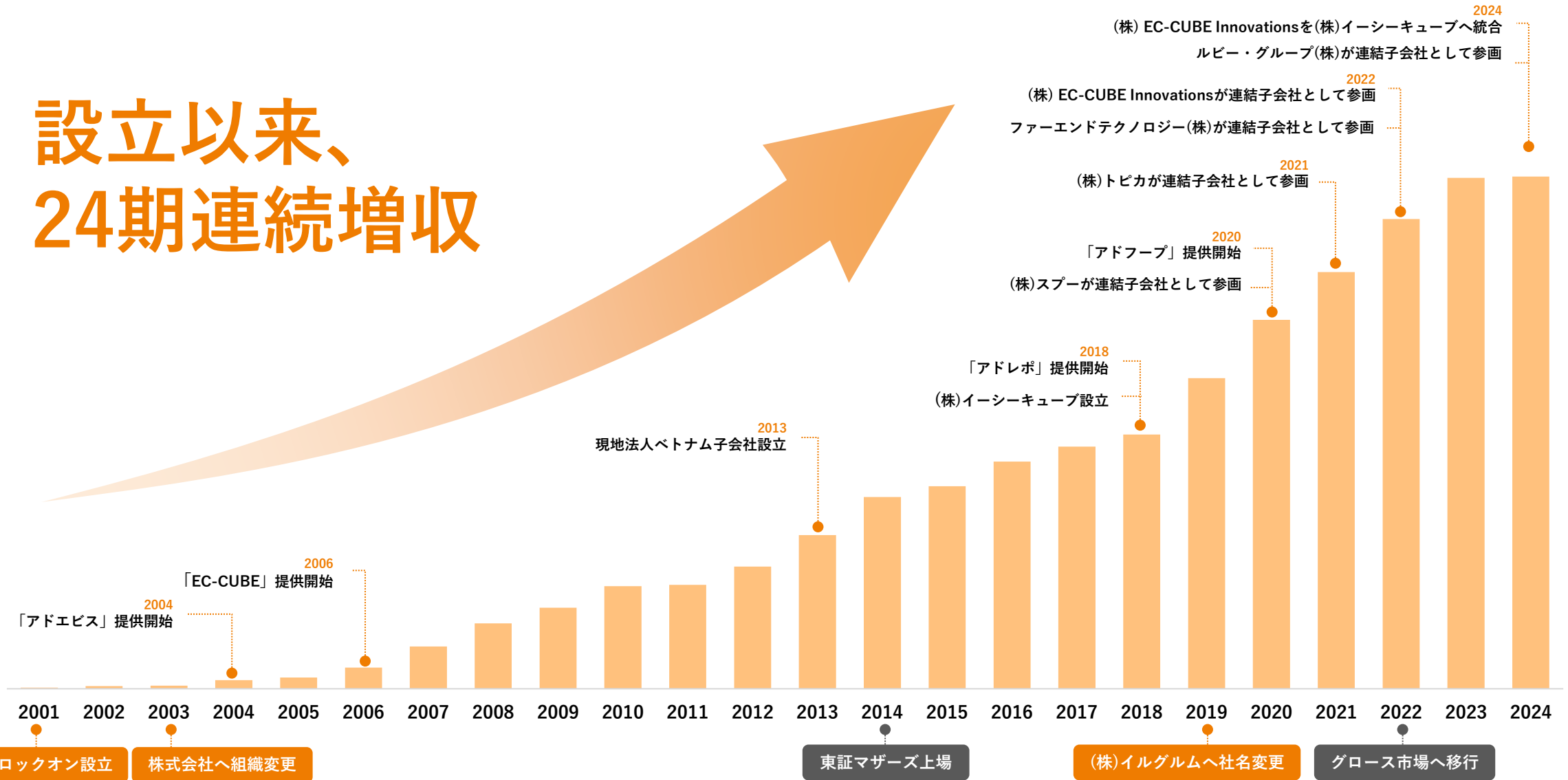
大規模なプロダクトを
開発・提供するための
豊富なケイパビリティ
を内製している



顧客基盤

No.1シェアの「アドエビス」
や「EC-CUBE」等の
顧客基盤を活かした
新サービスの展開が可能

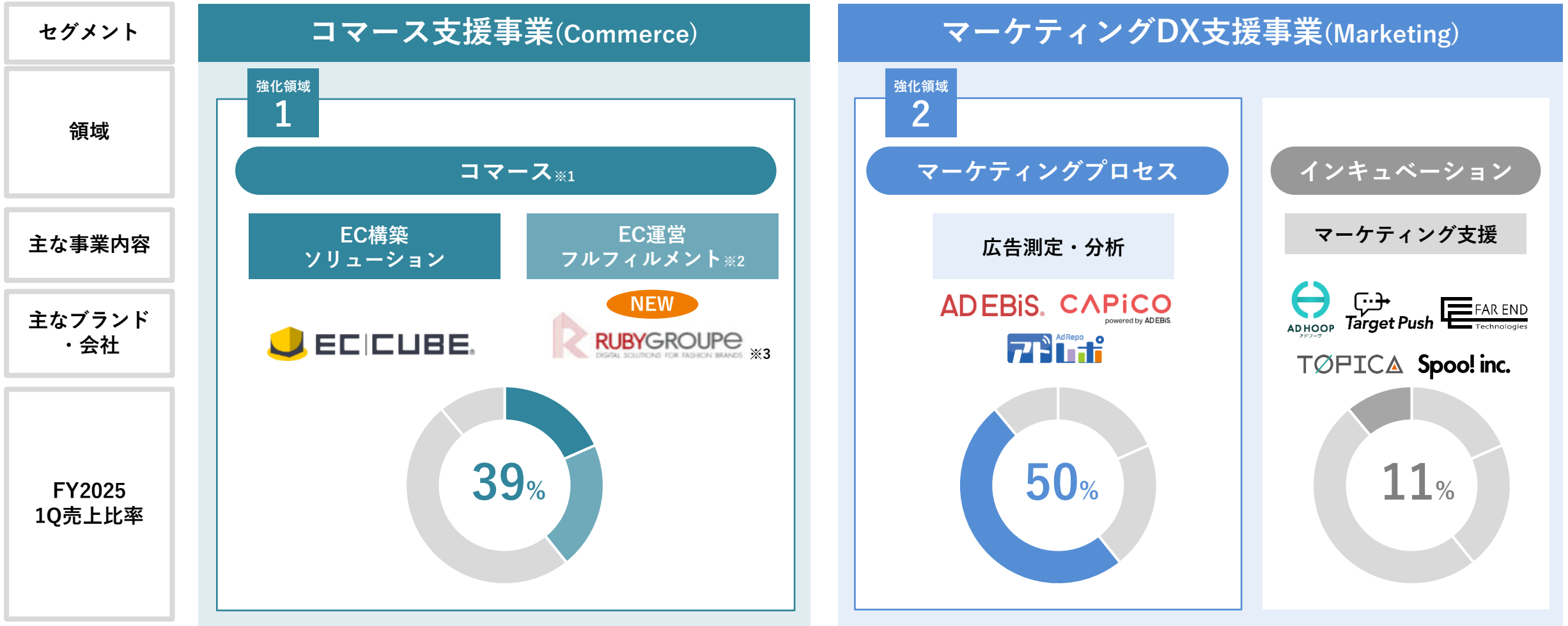
設立以来、 24期連続増収



※ グラフは各年期末段階の売上高（2002年以前は3月期、それ以降は9月期）

セグメント構成・強化領域

コマース支援事業とマーケティングDX支援事業の2セグメントで事業を展開



※1 FY24においてプラットフォーム領域とEC構築・運用領域としていたが、ルビー・グループの子会社化による垂直統合モデルのサービス拡充に伴い当1Qより領域統合
 ※2 フルフィルメント：ECサイトにおける商品の注文から配送までの一連のプロセスのこと
 ※3 当1Qからルビー・グループの連結開始

M&Aの実施

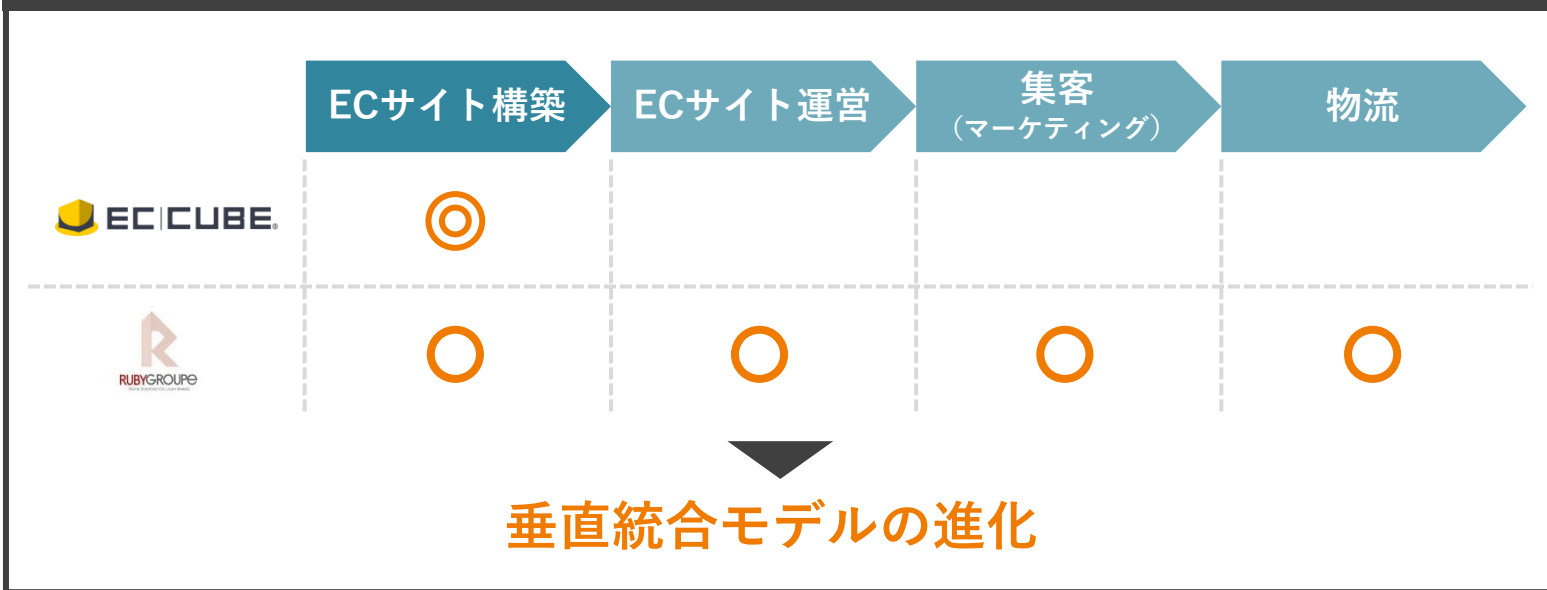
ルビー・グループをM&A・当1Q～連結子会社化すること
によってコマース事業の垂直統合モデルを加速

ルビー・グループ株式会社の特徴



豊富な実績やノウハウに基づく
ECサイトの運用代行や
フルフィルメントサービス

M&Aによるシナジー



2024年3月期
業績実績

売上高
1,026
百万円

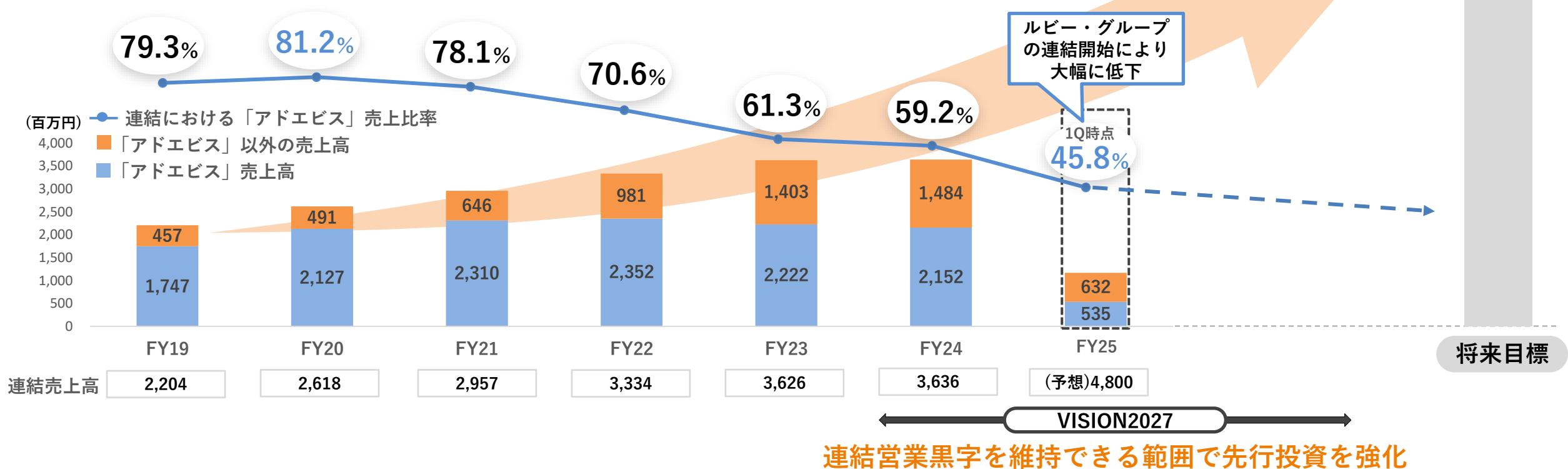
営業利益
2
百万円

連結開始に伴い売上高へのインパクトは大きいものの、
利益面の貢献は見込まない

売上構造の改革：進捗状況

新たな成長ドライバーによる売上創出に努めており、
 売上比率の大きい「アドエビス」への依存度を低下させながら連結売上が拡大
 詳細はP.26～中期経営方針『VISION2027』をご参照ください

売上高
100
 億円



今期テーマ

コマース領域の成長と マーケティングプロセス領域における 新サービスの収益化

コマース支援事業(Commerce)

今期売上高の方向感



受託中心のため、引き続き
四半期変動があるものの、
ルビー・グループの連結開始等
により前期比で大きく拡大へ

主な戦略コスト

成長の軸となる
構築・運用に関する人件費など

マーケティングDX支援事業(Marketing)

今期売上高の方向感



今期は横ばいの想定。
現状は「アドエビス」の
サブスク売上が中心のため、
期初は売上が積み上がりにくい傾向

主な戦略コスト

マーケティングプロセスの
新SaaSの開発コストなど

2

業績・トピック



連結損益計算書

ルビー・グループの連結開始によりCommerceが拡大し、四半期過去最高の連結売上を更新
先行投資強化により利益面は大幅減益・低進捗も、1Q業績は想定通りの推移

	2024年9月期	2025年9月期		
	1Q実績	1Q実績	前年同期比	対業績予想進捗率
売上高	928	1,167	+25.7%	24.3%
売上総利益	524	600	+14.6%	—
営業利益	49	23	△53.3%	11.6%
営業利益率	5.3%	2.0%	△3.3pt	—
経常利益	52	17	△66.1%	9.4%
親会社株主に帰属する四半期純利益	23	4	△82.8%	4.0%
【参考】 EBITDA ※	123	107	△13.4%	—
EBITDAマージン	13.3%	9.2%	△4.1pt	—

※ EBITDA = 営業利益+のれん償却費+減価償却費として算出しております

※ 本資料におけるセグメント別業績はセグメント間取引の調整額の表記を省略しているため、各セグメント売上高及び営業利益の合計値は連結売上高及び連結営業利益と一致しないことがあります

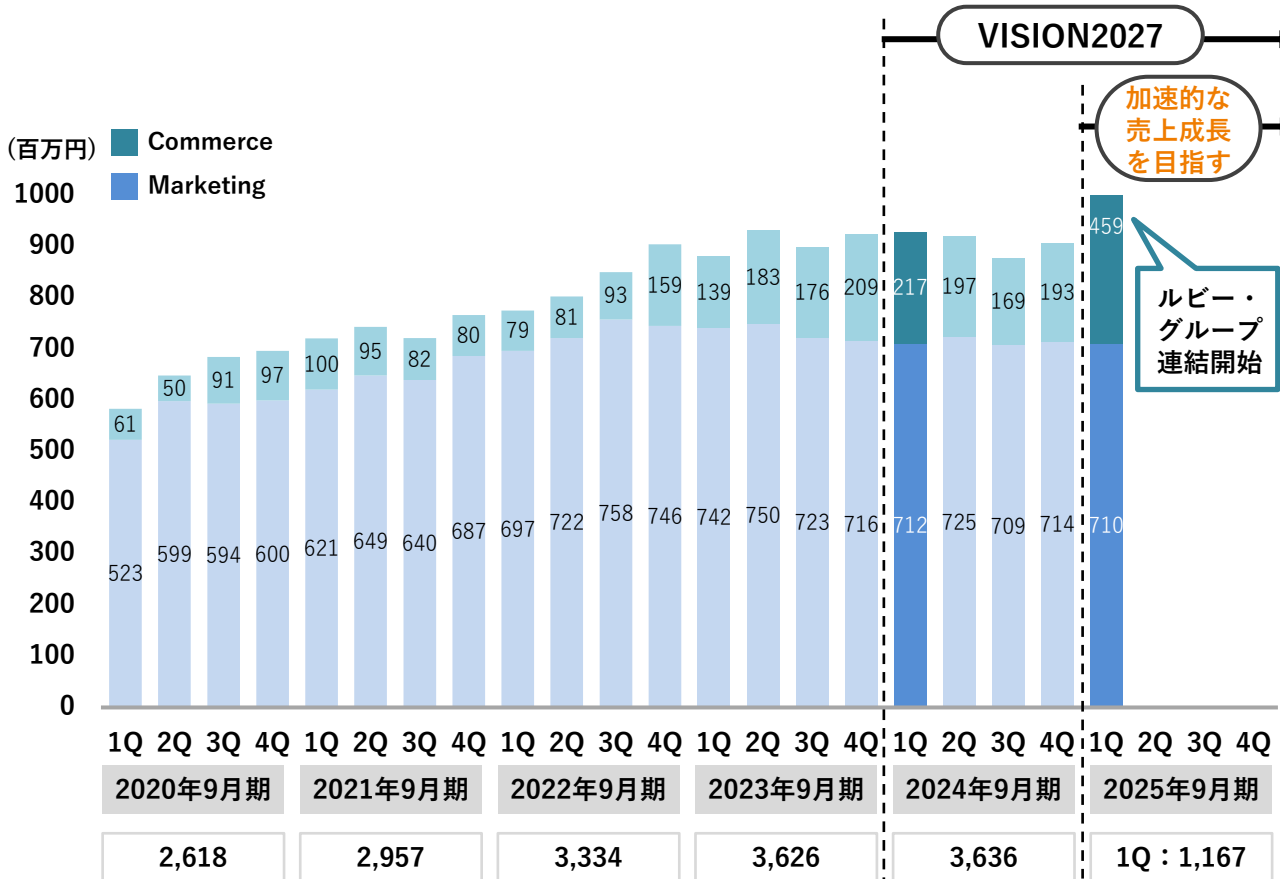
コマース支援事業 (Commerce)			
単位：百万円	前1Q実績	当1Q実績	前年同期比
売上高	217	459	2.1倍
営業利益	16	△30	—
営業利益率	7.8%	—	—

マーケティングDX支援事業 (Marketing)			
単位：百万円	前1Q実績	当1Q実績	前年同期比
売上高	712	710	△0.2%
営業利益	32	53	+62.0%
営業利益率	4.6%	7.5%	+2.9pt

売上高・営業利益推移

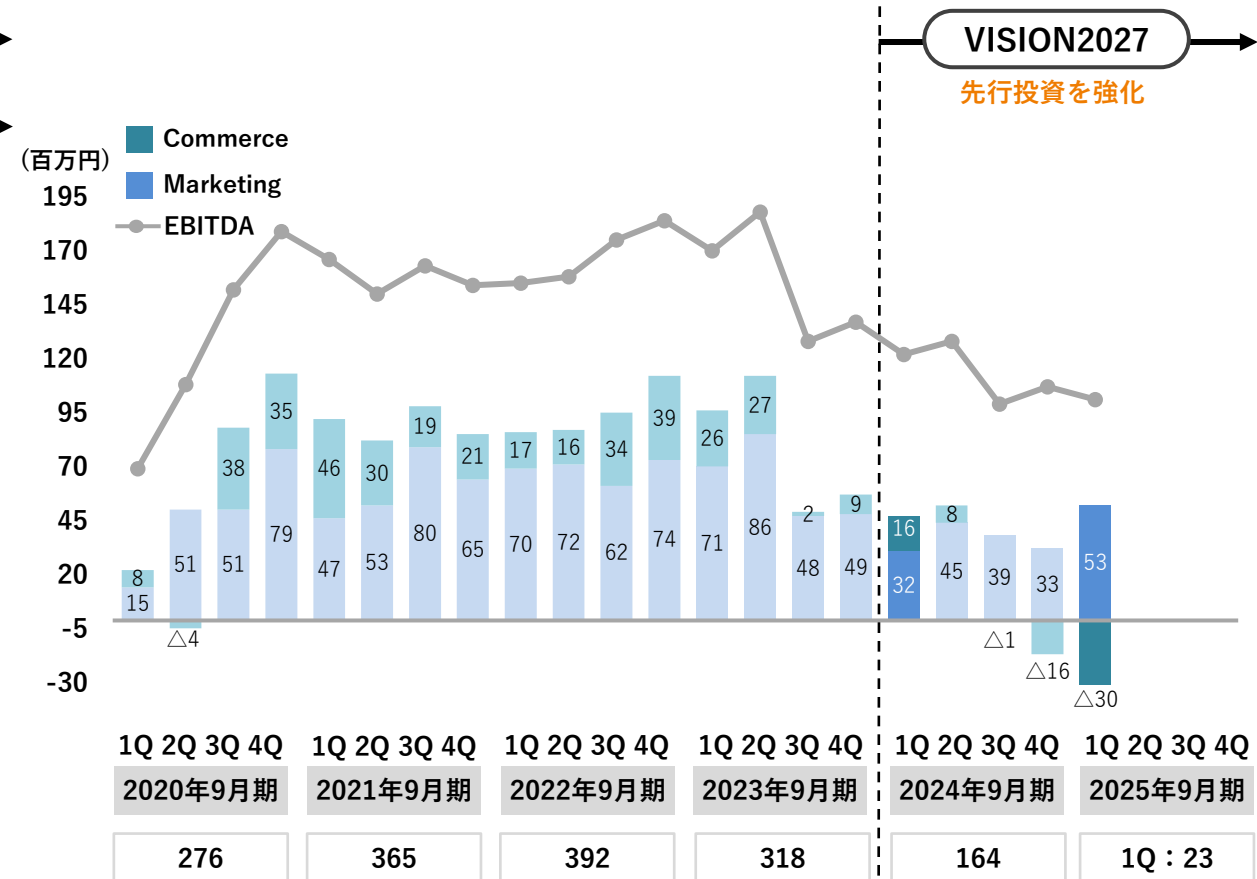
連結売上高

中期経営方針『VISION2027』において
加速的な売上成長を目指す3ヵ年の初年度である
今期はM&A効果により大幅な売上拡大を実現



連結営業利益

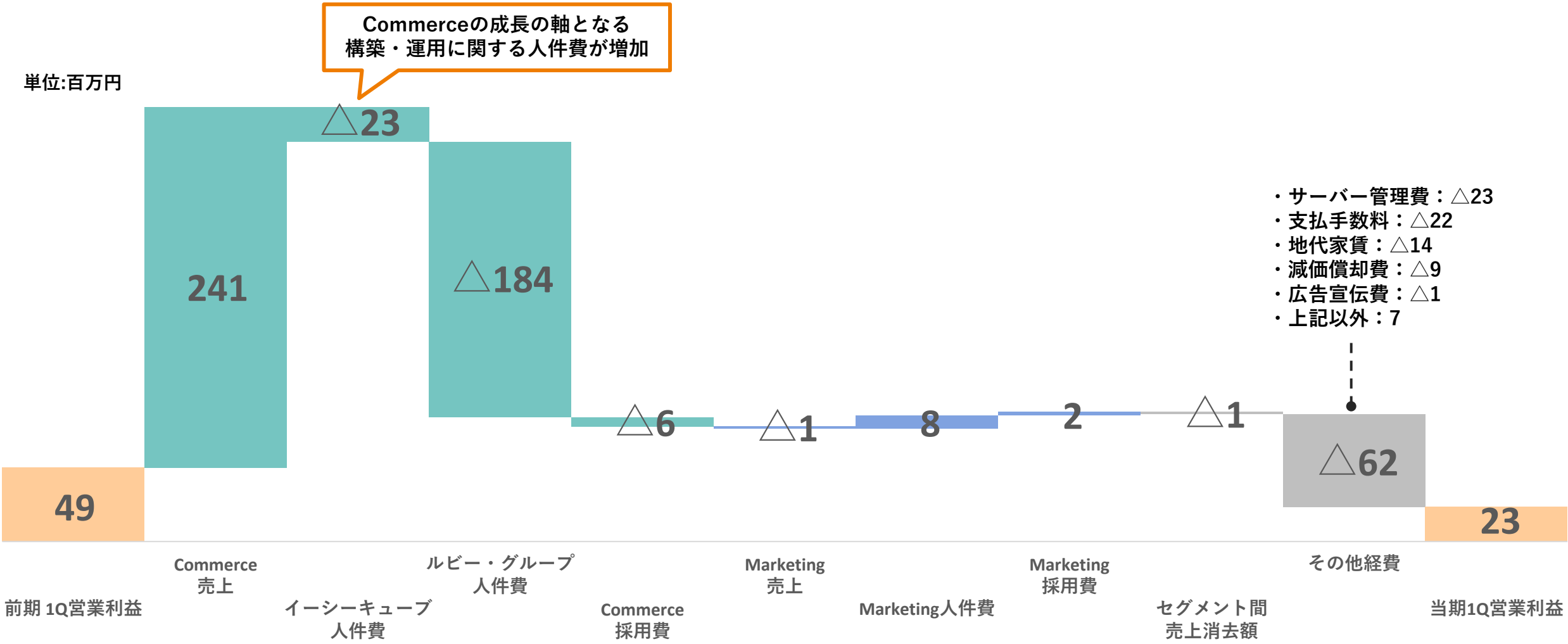
先行投資強化の方針に基づき
Commerceは四半期での営業赤字継続も、
連結では営業黒字を確保



※ 本資料におけるセグメント別業績はセグメント間取引の調整額の表記を省略しているため、各セグメント売上高及び営業利益の合計値は連結売上高及び連結営業利益と一致しないことがあります

営業利益の変動要因

ルビー・グループ連結による売上増も、連動コストがその大半を打ち消し、今後の売上拡大に向けた戦略コストの投下等により1Q営業利益は前年同期比で減少



連結貸借対照表

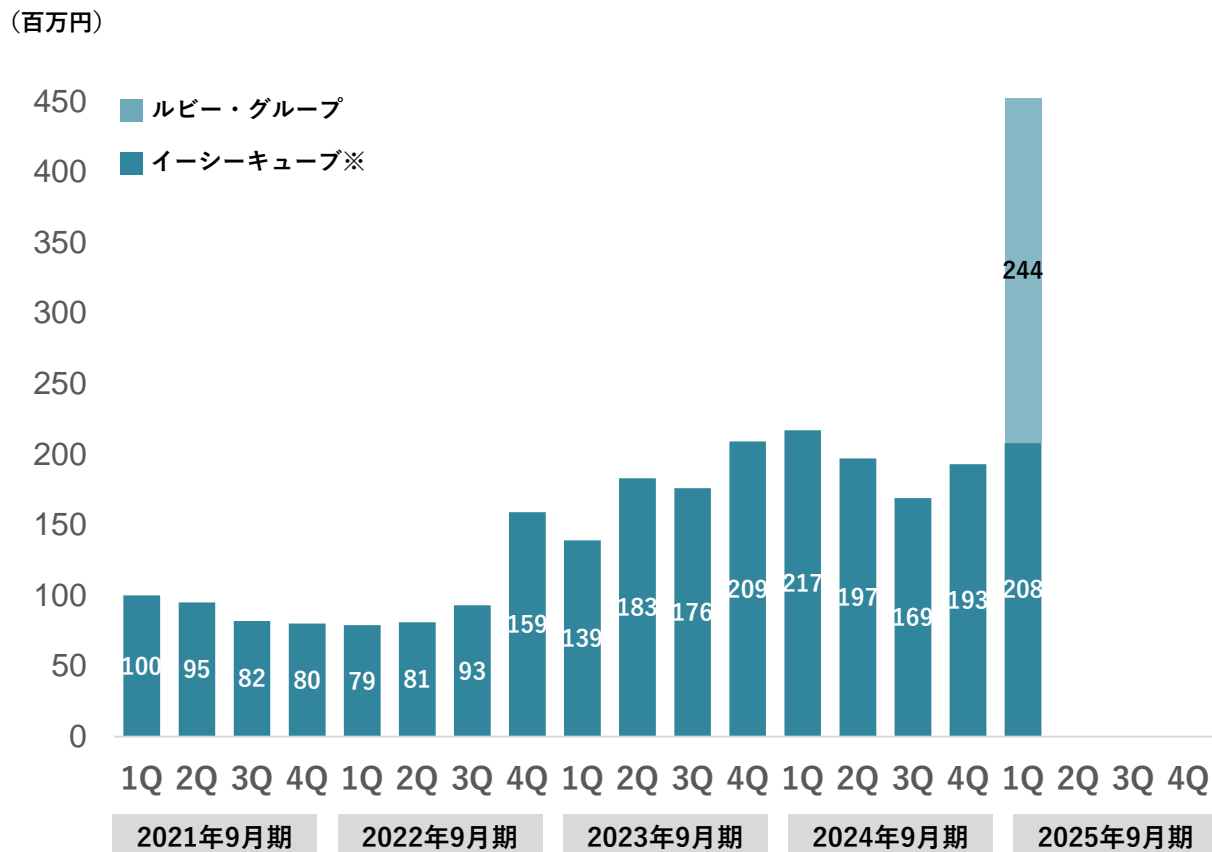
期末配当金の支払い等により現預金が減少
自己資本比率減も健全な財務水準は維持

単位:百万円	2024年9月期	2025年9月期	増減
	期末	1Q末	
流動資産	2,240	2,318	+78
内、現預金	1,407	1,179	△137
固定資産	1,284	1,226	△57
有形固定資産	85	86	+1
無形固定資産	865	861	△4
投資その他資産	333	278	△54
資産合計	3,524	3,544	+20
負債合計	1,589	1,701	+112
内、有利子負債	844	783	△61
純資産合計	1,934	1,843	△91
自己資本比率	53.3%	50.5%	△2.8pt

セグメント別概況

Commerce売上高

ルビー・グループの連結開始に伴い、
1Qは前年同期比2.1倍に拡大

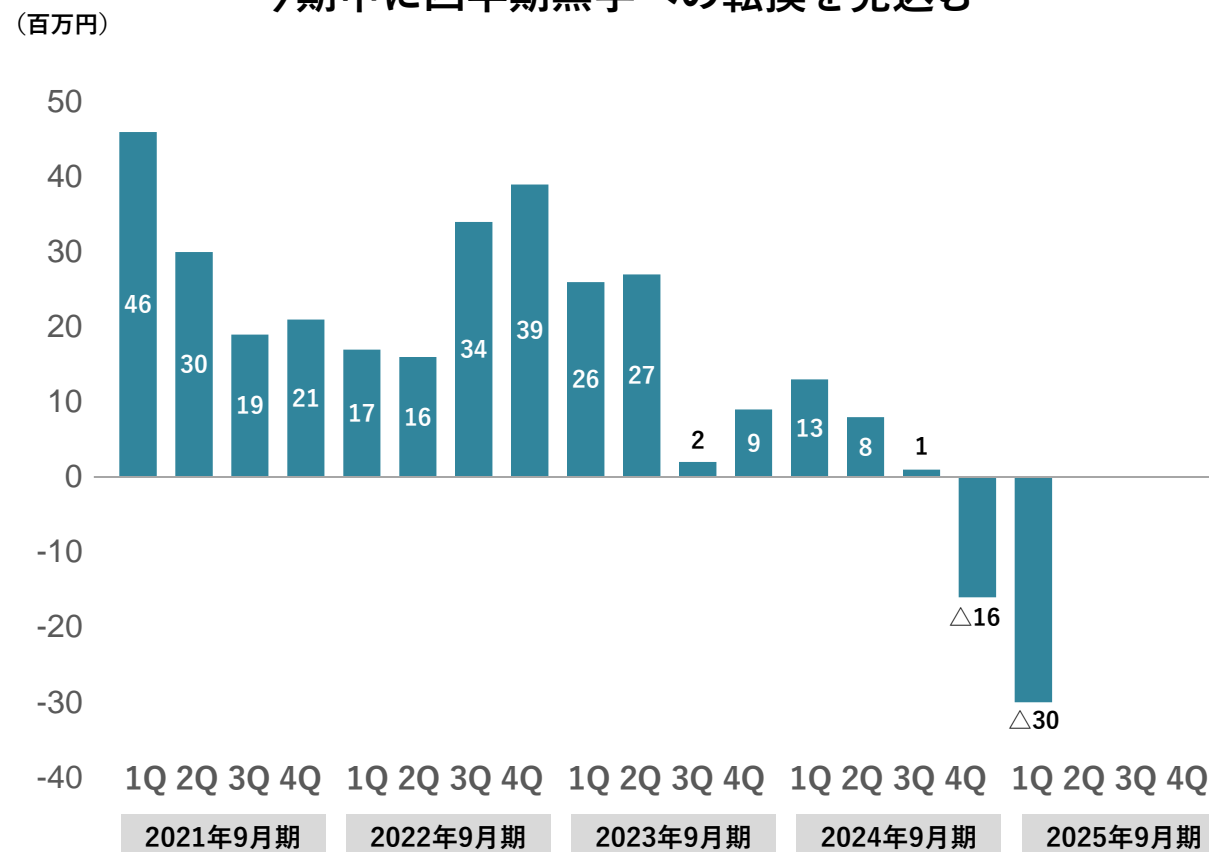


※ サービス「EC-CUBE」の売上高ではなく、子会社イーシーキューブの売上高

※ 本資料におけるセグメント別業績はセグメント間取引の調整額の表記を省略しているため、各セグメント売上高及び営業利益の合計値は連結売上高及び連結営業利益と一致しないことがあります

Commerce営業利益

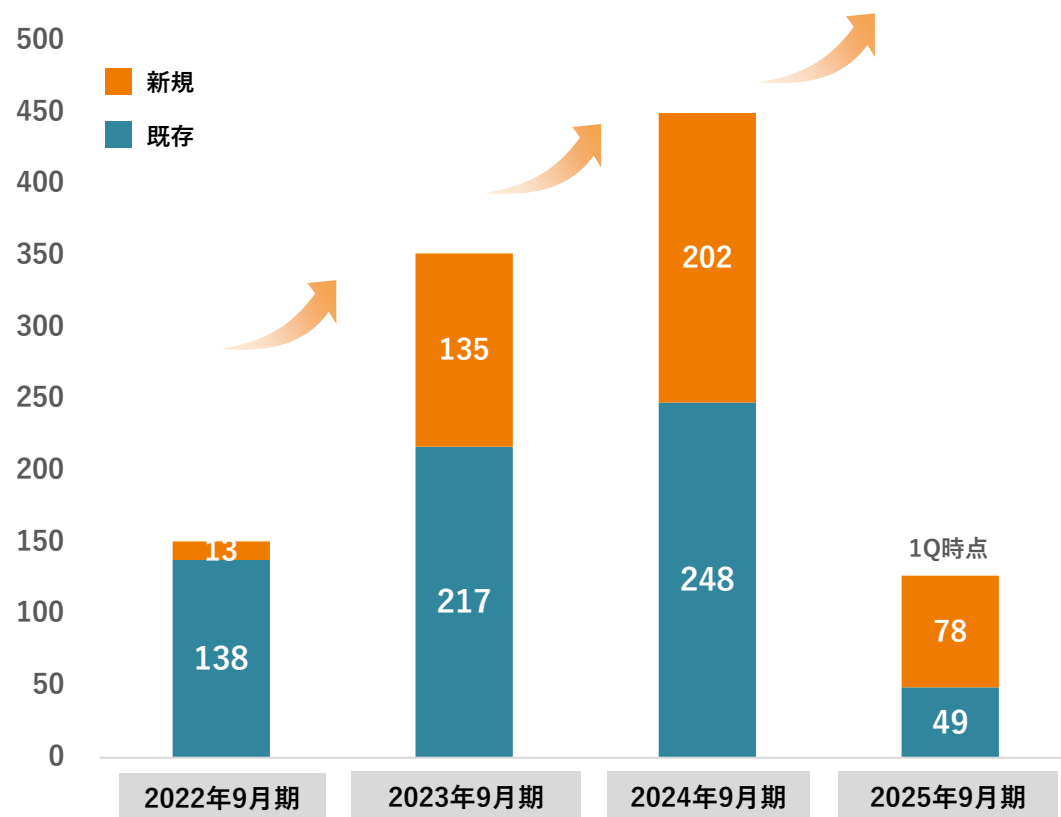
成長の軸となる構築・運用に関する人件費を中心に
戦略コストの投下により、1Qは営業赤字拡大も
今期中に四半期黒字への転換を見込む



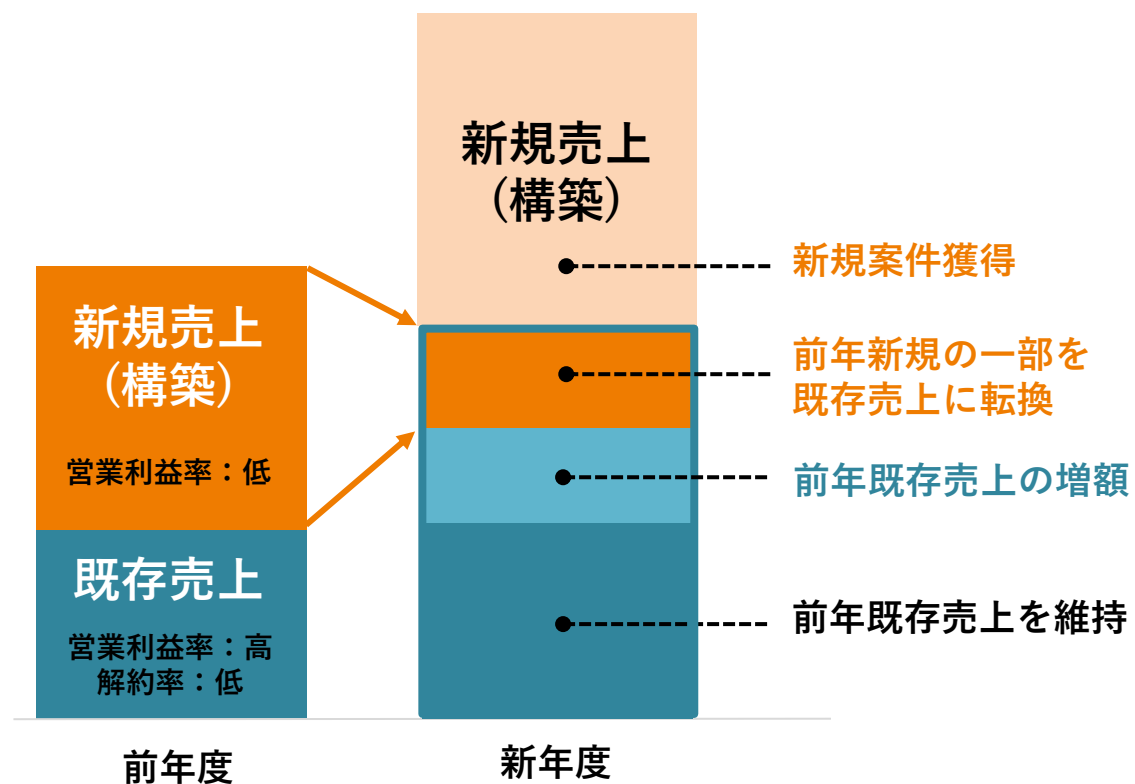
構築・運用支援の新規・既存比率

FY22より構築・運用支援売上を着実に積み上げ
更なる新規獲得と共にストック性の高い既存売上拡大を目指す

構築・運用支援 売上高実績



収益構造イメージ



※ ルビー・グループでも一部構築案件を行ってはいるものの、現時点では強化に取り組んできたイーシーキューブの実績を記載

2024年12月にリリース第3弾となる 「EC-CUBE Enterprise Subscription」を提供開始

NEW

第3弾

2024年12月



高機能定期購入プラグイン「リピートキューブ」の
機能とノウハウを活かした
定期購入/サブスクリプション機能を搭載

第1弾

2024年6月



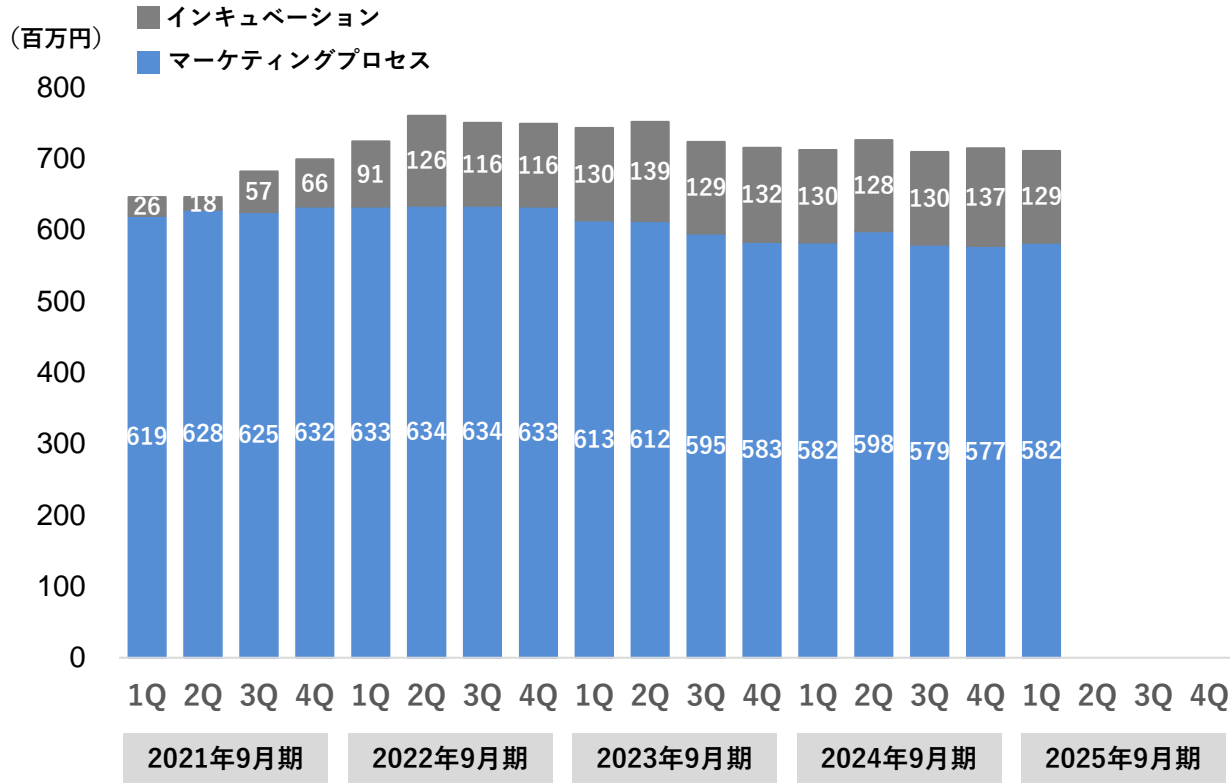
第2弾

2024年9月



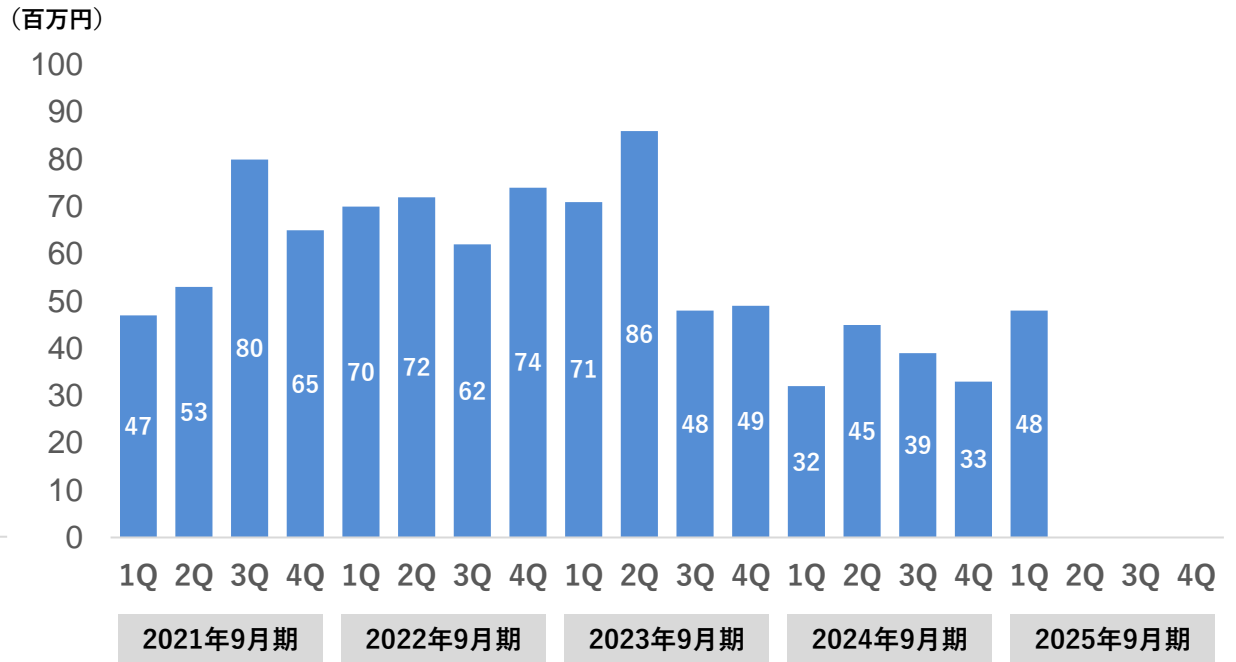
Marketing売上高

売上比率の大きい「アドエビス」が
売上維持フェーズであるため
四半期売上は概ね横ばいで推移



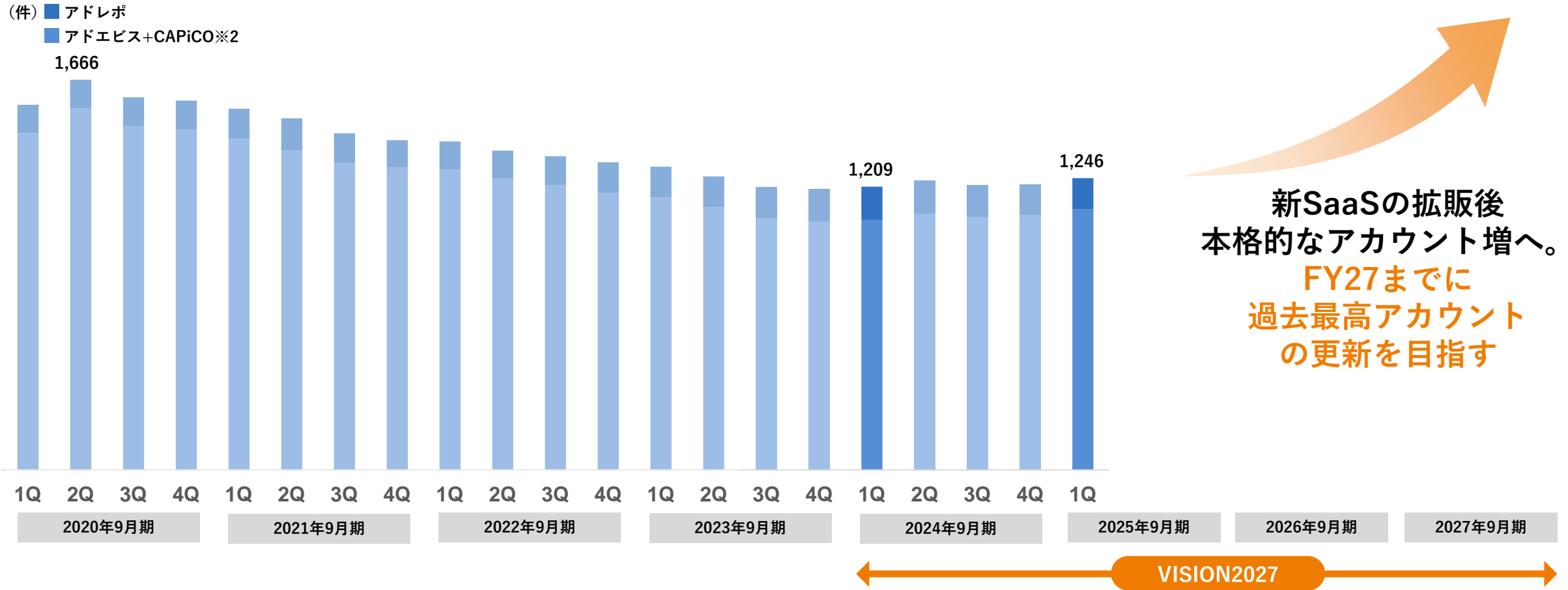
Marketing営業利益

マーケティングプロセスの新SaaSへの投資を継続も、
1Qは利益率の高い「アドエビス」売上が堅調
だったこと等により前四半期比で増加



※ 本資料におけるセグメント別業績はセグメント間取引の調整額の表記を省略しているため、各セグメント売上高及び営業利益の合計値は連結売上高及び連結営業利益と一致しないことがあります

新規獲得施策の「GSP」と「CAPICO」が奏功しアカウント数は底打ち
 今後は、クロスセル促進とFY25下期に予定している新SaaS有償化によりに本格増を目指す



※1 前期はマーケティングプロセス領域のアカウント数をMarketingのセグメントKPIとしていたが経営指標の1つに変更

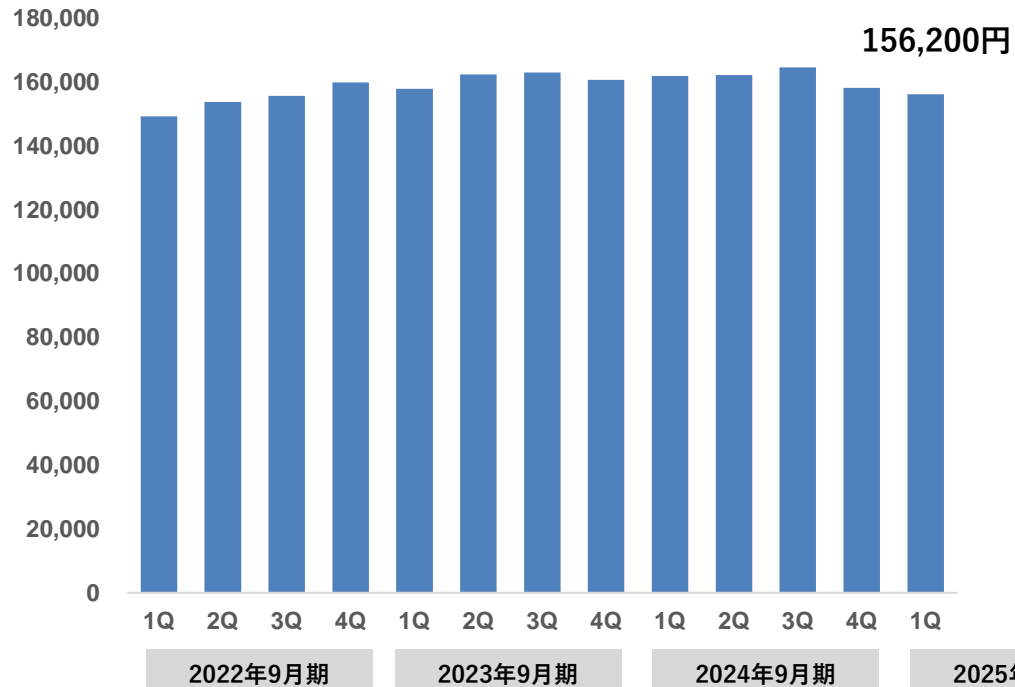
※2 「アドエビス」+「CAPICO」のみ利用のアカウント数を集計。「CAPICO」の「アドエビス」併用アカウントは、「アドエビス」のオプション扱いである為カウント対象外。

なお、有料アカウントの数値のため、新SaaSのβ版アカウントは含めていない

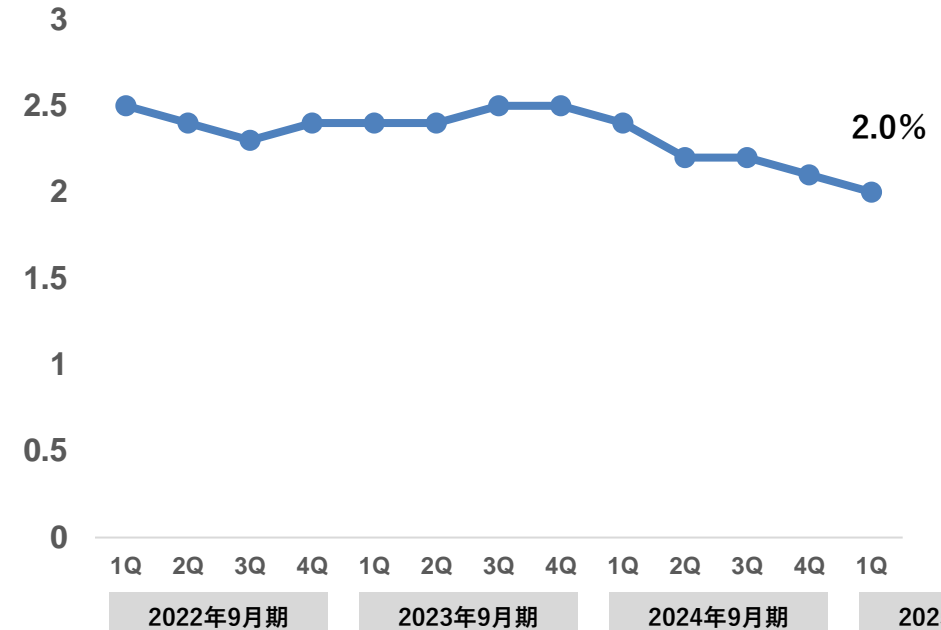
マーケティングプロセス領域の平均単価・解約率

平均単価は「アドエビス」の低単価プラン（GSP）の拡販等により低下傾向も想定通り
解約率は継続的なカスタマーサクセス活動により目標である2.0%を達成

平均単価



解約率※



※直近12ヵ月移動平均（解約率＝直近12ヵ月の解約金額÷前月までの12ヵ月売上金額にて算定）
四半期末月の数値を記載

日次更新でのクロスデバイス分析を可能に
企業のデータドリブンマーケティングにおいて、スピーディーな意思決定を実現

ADEBiS.

日次でクロスデバイス分析が可能！
スピーディーな意思決定を支える

AI推定クロスデバイス分析をリリース



独自開発のAI(人工知能)分析で
デバイスやブラウザを横断したユーザー行動を可視化

NEW

- ✓ 統合されたデータ分析により、正確な効果測定が可能
- ✓ 日次データを広告運用にフィードバック
- ✓ ユーザー行動の可視化でパーソナライズされた広告配信を実現

クロスデバイスとは

同一ユーザーが複数のブラウザ、デジタル機器（例：PC/スマートフォン）を使用する場合にも、同一ユーザーであると認識・推定する技術や仕組みのこと。アドエビスでは同一人物と推定して同一人物であった確率が約9割という精度を誇り、多くの企業様に導入されています。

3

中期経営方針 『VISION2027』

FY2024 ~ 2027

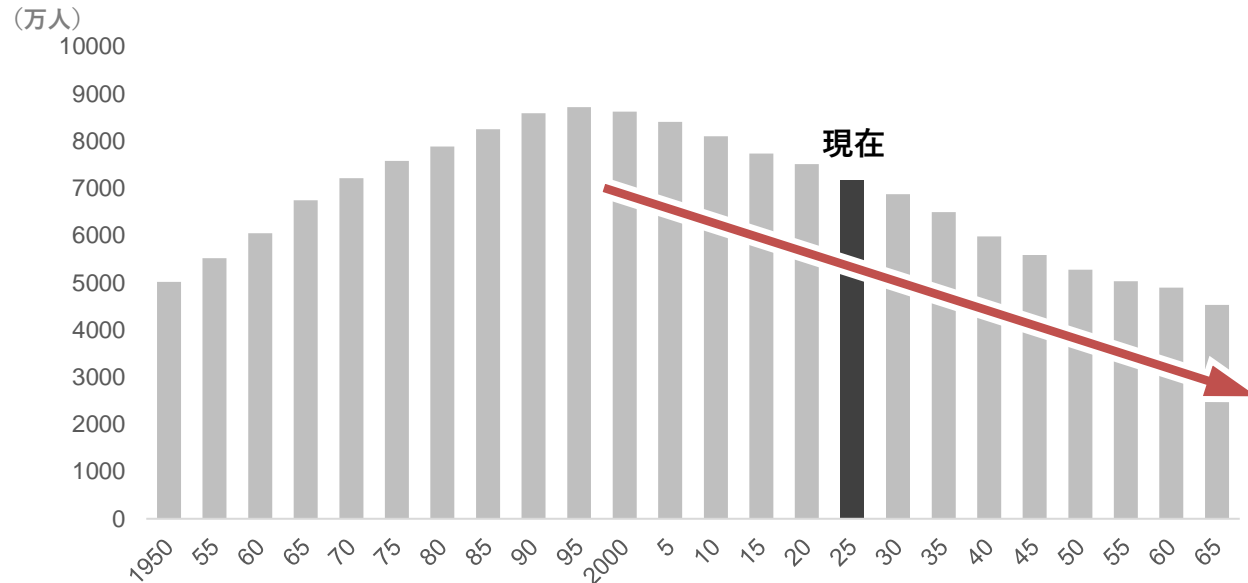


社会課題と当社が考える解決策

生産年齢人口の減少という日本の社会課題において 独自のテクノロジー×DX人財によって企業の事業推進を支援する存在が必要

社会課題

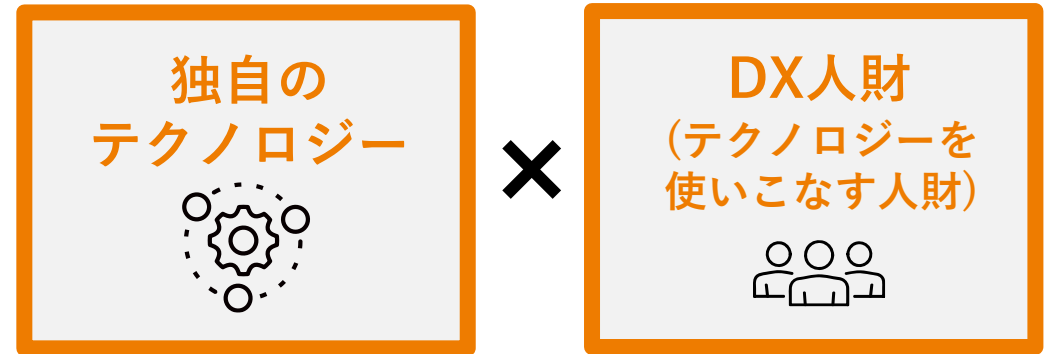
日本の生産年齢人口は今後も減少が見込まれており
企業の多くは効率化による生産性の向上が課題



日本の生産年齢人口

当社が考える解決策

テクノロジーのコモディティ化が起きているなかで、
顧客企業の課題と向き合い



によって事業推進を支援できるスキームを持つことが重要

企業の事業を推進することによって
日本の生産性向上につながる

※ 出典：内閣府（2022）「令和4年版高齢社会白書」



当社ビジネスの変革

『第2創業期』

これまでのプロダクトを中心に成長を続けてきたが、
『**プロダクト×DX人材**』で顧客事業を支援するビジネスパートナーへ変革し、
売上高100億円の早期達成を目指す

効率的ではあるが部分的

ツールでは補いきれない
幅広い需要にも対応可能

プロダクト 
×
DX人材 

100
億円

「アドエビス」と「EC-CUBE」等のプロダクト中心に
継続的な売上成長を続けてきた



現在

36.3
億円

ツールだけではない
イルグルム

祖業：請負事業

2001 2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 2022 2023 2024



中期経営方針
『VISION2027』テーマ

今期FY2025テーマ

マーケティングプロセス支援とコマース支援の
2軸の成長ドライバーによって、
売上100億円達成への道筋を明確にする

コマース領域の成長と
マーケティングプロセス領域における
新サービスの収益化

『VISION2027』の目指す姿

マーケティングDX支援事業 (Marketing)

マーケティング活動を実施する企業が
マーケティング施策の
効果改善サイクルを回すことが
できる社会を実現し、
マーケティングプロセス支援の
パイオニアとして
確固たるポジションを確立する

コマース支援事業 (Commerce)

高度化するeコマース市場において
構築・運用フェーズを軸として
集客・物流に至るまで
EC事業者が直面する課題に対して
支援サービスを提供し、
確固たるポジションを確立する

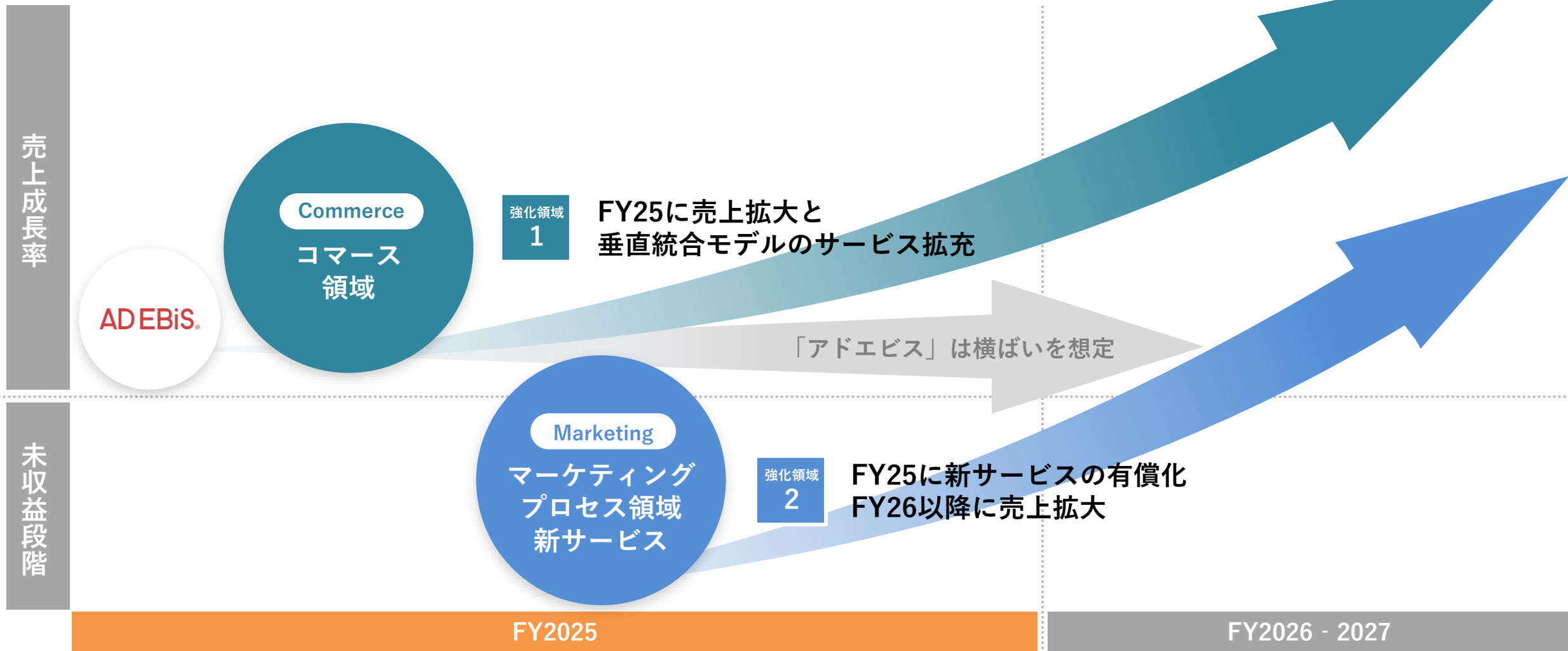
『VISION2027』
の目指す姿

売上比率

FY27に向けてCommerceの比率が拡大し、比率が同水準となる見込み
(FY24時点ではMarketingが連結売上の約8割を占める)

『VISION2027』 売上成長イメージ

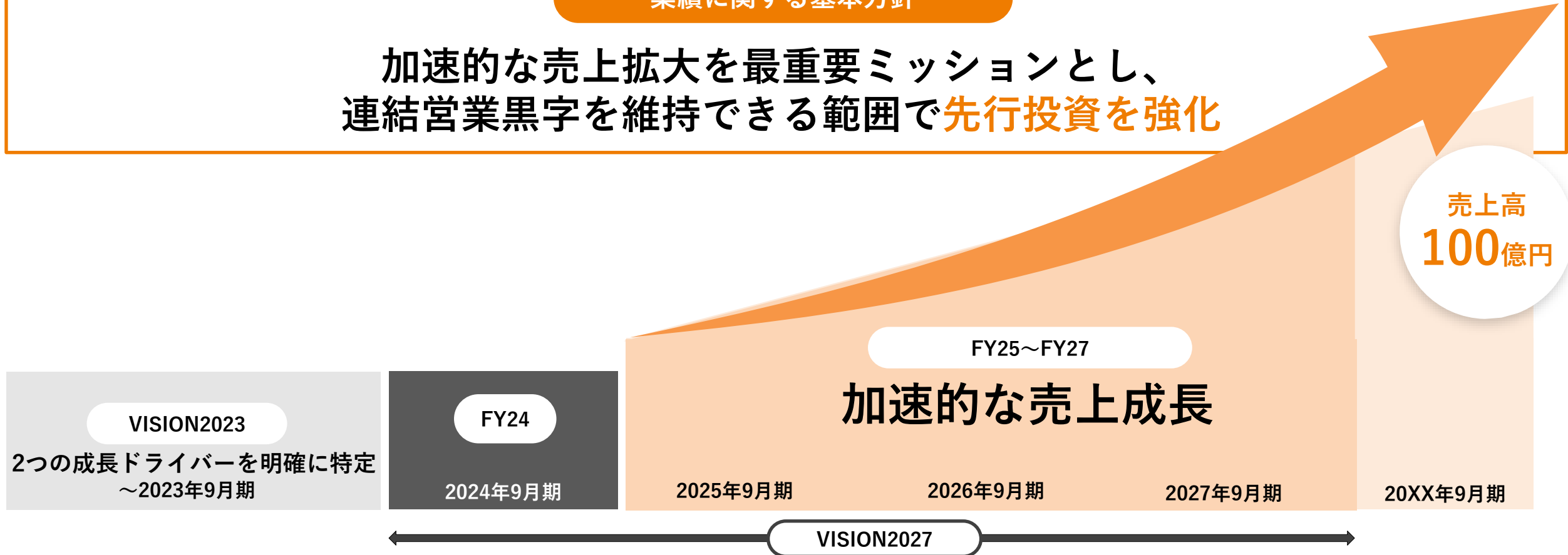
まずは売上成長が加速しているコマース領域を更に伸ばし、次にマーケティングプロセス領域の新サービスの収益を追求



『VISION2027』の業績・投資方針

業績に関する基本方針

加速的な売上拡大を最重要ミッションとし、
連結営業黒字を維持できる範囲で**先行投資を強化**



投資方針①

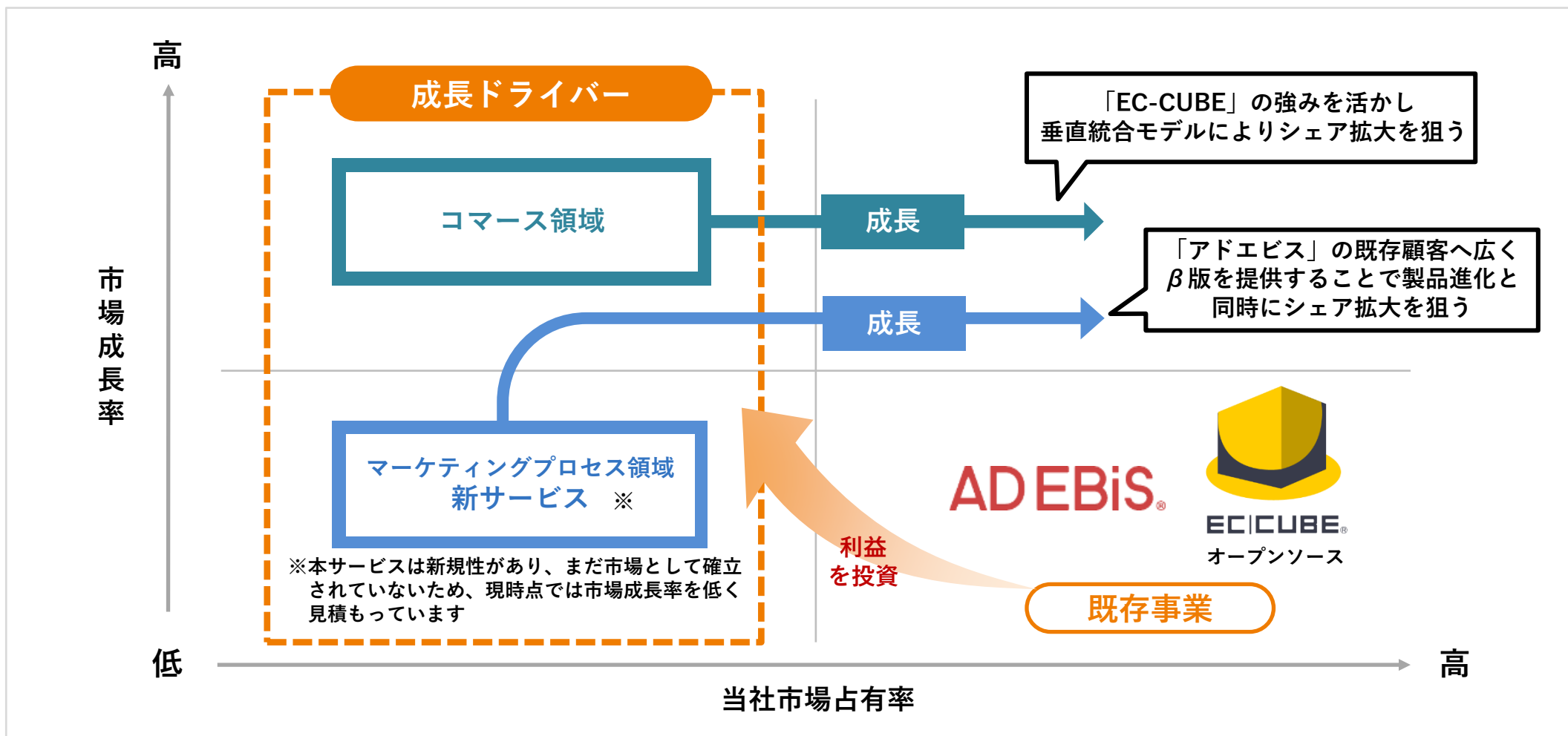
「アドエビス」を中心とする既存事業の収益を成長ドライバーへ投資

投資方針②

M&Aによって不足しているケイパビリティを獲得

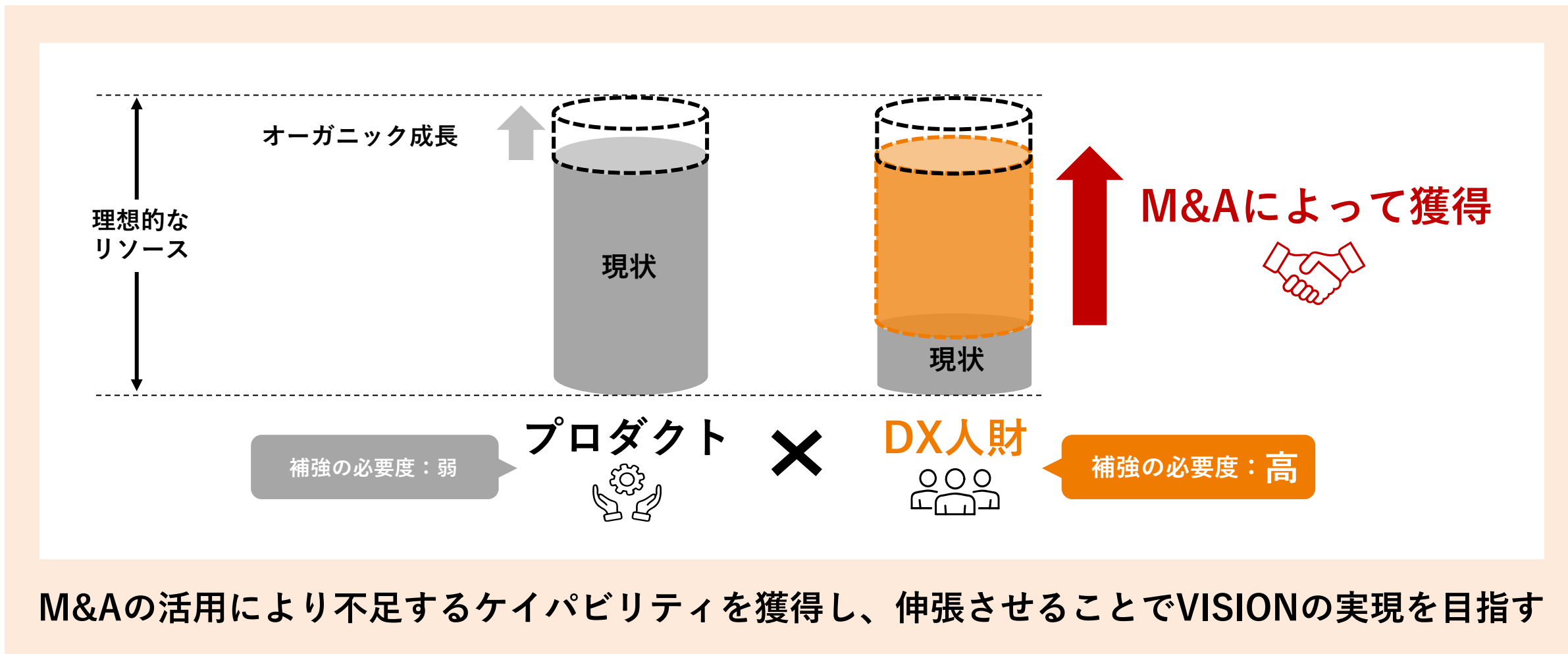
投資方針①：既存事業の安定収益を成長ドライバーに投資

売上維持フェーズとなった「アドエビス」を中心とする**既存事業での安定収益**を今後の売上成長期待が大きい**成長ドライバーに投資**することで業績拡大を目指す



投資方針②： M&A方針

現状相対的にリソースが不足する「DX人財」をM&Aによって獲得



『VISION2027』の重点投資領域・進捗状況

成長領域への投資が概ね着実に進捗

	重点投資領域	進捗状況(2025年2月5日時点)
マーケティング DX支援	・ マーケティングプロセス領域の新SaaSのリリースと継続的なアップデート	○ 「アドエビス」顧客に対し、β版の導入社数を拡大。顧客の声を元に継続的なアップデートを実施。
	・ 既存サービスの拡販によるアカウント数拡大とクロスセル促進	○ 「アドエビス」の「GSP」「CAPiCO」が奏功し、アカウント数は2023年4Qで底打ち。
	・ SaaSでは充足しえない顧客課題を解決する人的支援サービスの開発・提供	△ 「アドエビス」の導入において、有償サポートプランを開始。新サービスの人的支援については、SaaSの有償化以降に検討。
	・ M&Aによるサービス拡充	(新サービスの進捗状況を鑑みて検討)
コマース支援	・ EC-CUBEエンタープライズ版の開発・提供	◎ 2024年9月の第2弾に続き、12月に第3弾のサービスをリリース。引き続き、サービス拡充に向け開発中。
	・ 日越における開発体制の拡充	○ 積極的に人員を拡充。
	・ ECサイト構築後の運用とマーケティング活動を支援するサービスの拡充	○ ルビー・グループの参入により前進。
	・ M&Aによる領域拡大	◎ 2024年9月にルビー・グループを取得。

4

サービス概要・戦略



コマース支援事業

EC構築基盤システム

自社開発・小～中規模向け

充実のカート機能を
搭載したオープンソース



- ✓ 高カスタマイズ、低コストを実現
国内ECオープンソースでNo.1 ※1
- ✓ 提供開始から15年以上の実績
パートナーコミュニティが充実
- ✓ 国内35,000店舗以上稼働※2
年間流通総額2,100億円以上※3

大規模・高アクセス向け

コストパフォーマンスに
優れた高可用性システム

EC|CUBE *Enterprise*

Infrastructure/Mall/Multilingual/Subscription/BtoB

- ✓ 従来の大規模EC構築と比較し、
大幅なコストダウンを実現可能に
- ✓ 高アクセス・モール型EC・多言語対応
- ✓ EC-CUBE開発元のノウハウと技術力

※1 独立行政法人情報処理推進機構「第3回オープンソースソフトウェア活用ビジネス実態調査」による
 ※2 2021年1月時点
 ※3 2019年8月時点

大手ECサイトで多数の利用実績

DOUTOB

MARUZEN
JUNKUDO

ユーハイム
Tuchheim

この国の味、ここから。
にんべん


文明堂
BUNMEIDO

MEDULLA

 **Kuretake**

KENZO ESTATE

独立行政法人 国立美術館

人形町 今半

NISHIKIYA
KITCHEN

ノベルティのことなら
販促花子

TORAY
Innovation by Chemistry

崎陽軒

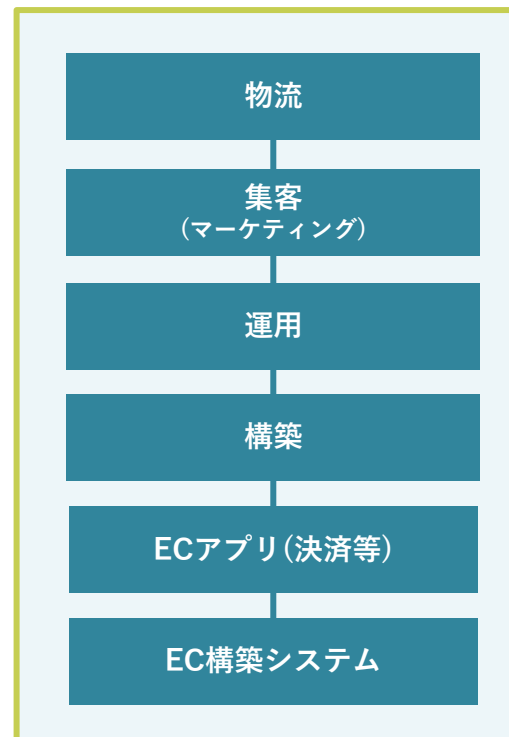
大阪王将
OSAKA OHSHO

LifeMeal

「EC-CUBE」の強みを活かしながら提供機能を垂直方向へ拡張の戦略をFY22より推進
ルビー・グループのM&A・子会社化により垂直統合モデルが進化

垂直統合モデル

垂直統合

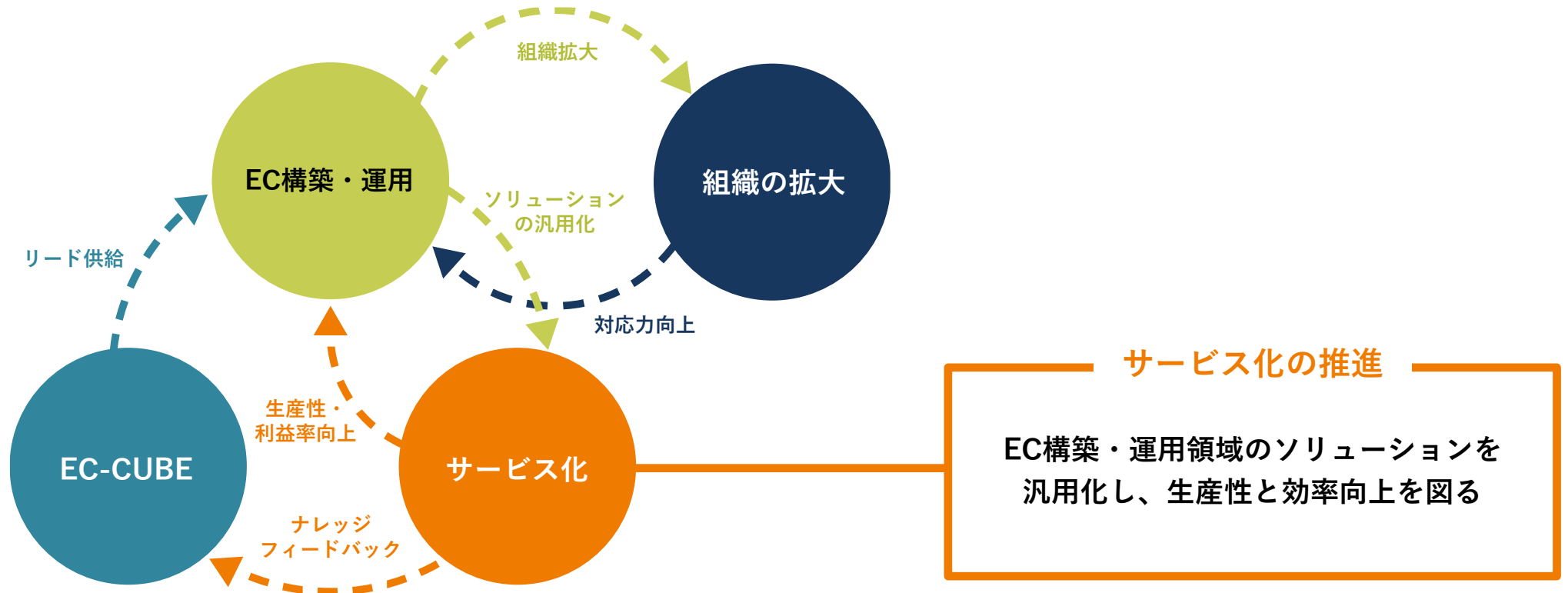


構築・運用フェーズを軸として
集客・物流に至るまで
EC事業者が直面する課題を支援する
垂直統合モデルの実現に向けて
サービスを拡充

「EC-CUBE」の高い認知度を活用してリードを獲得し、EC構築・運用案件を受注することで組織の拡大を図り、更なる受注増を目指す。

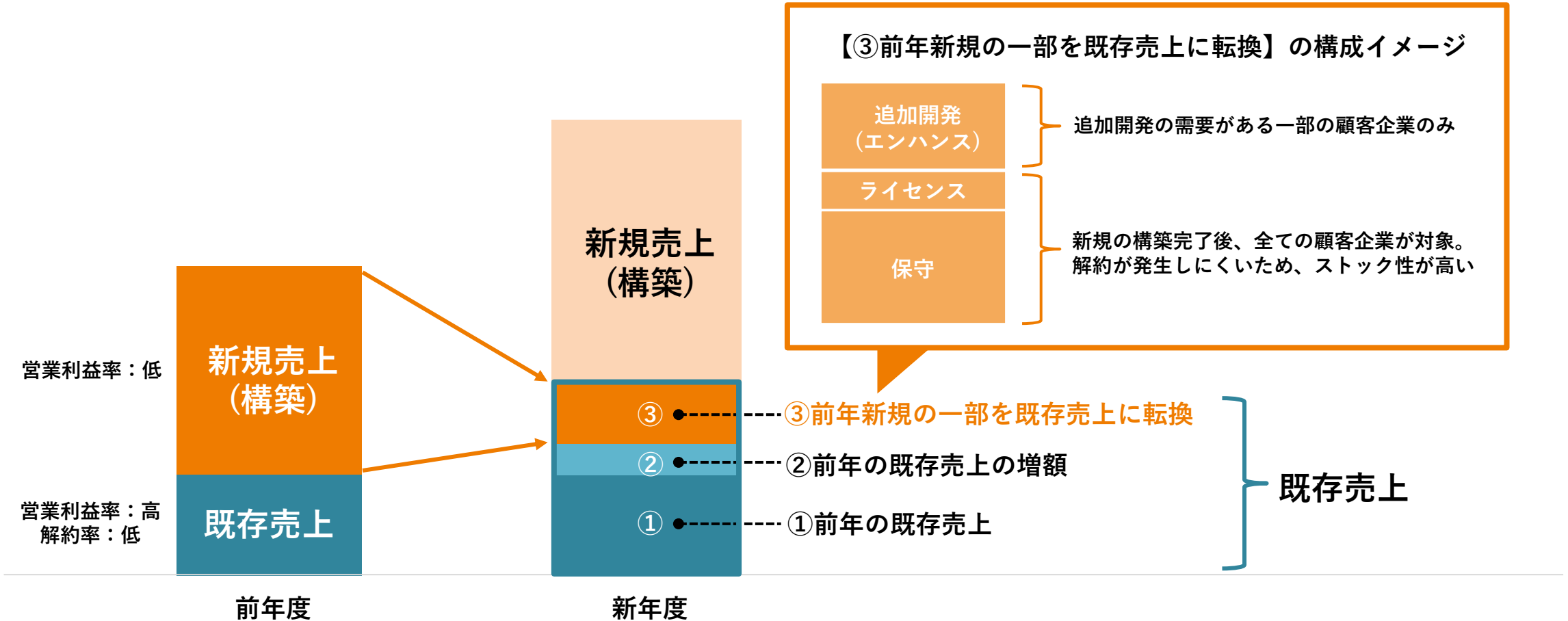
また、そこで得たノウハウを汎用化し、自社サービスとして展開することで、「EC-CUBE」の品質向上にも貢献。

この成長サイクルを拡大させることで、ビジネスの更なる発展の実現へ



利益率が高くストック性の高い既存売上の増加が成長のカギ

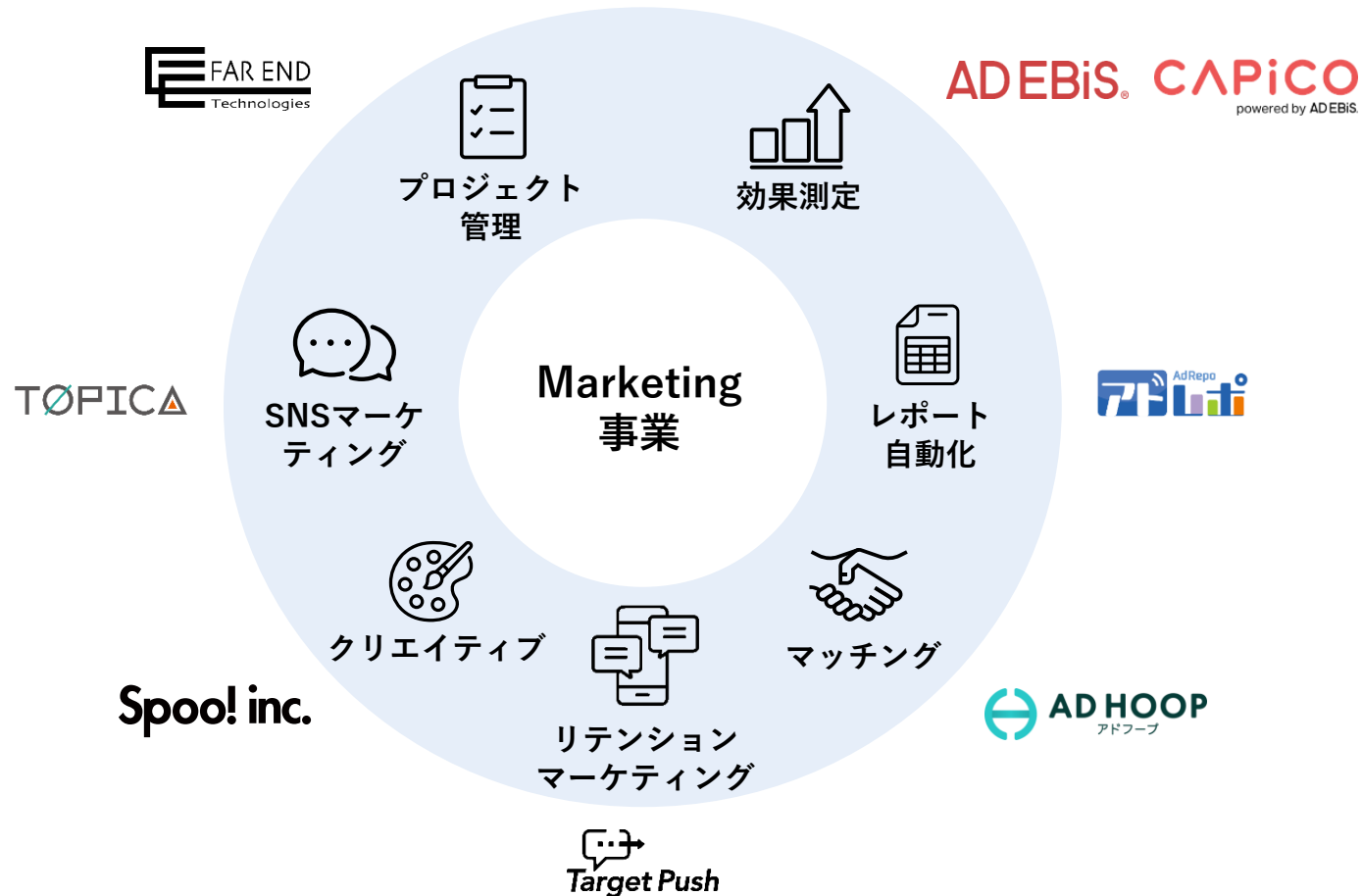
利益率の低い新規案件をマーケティング的な位置付けで行い、翌年以降の既存売上拡大を目指す



マーケティングDX支援事業

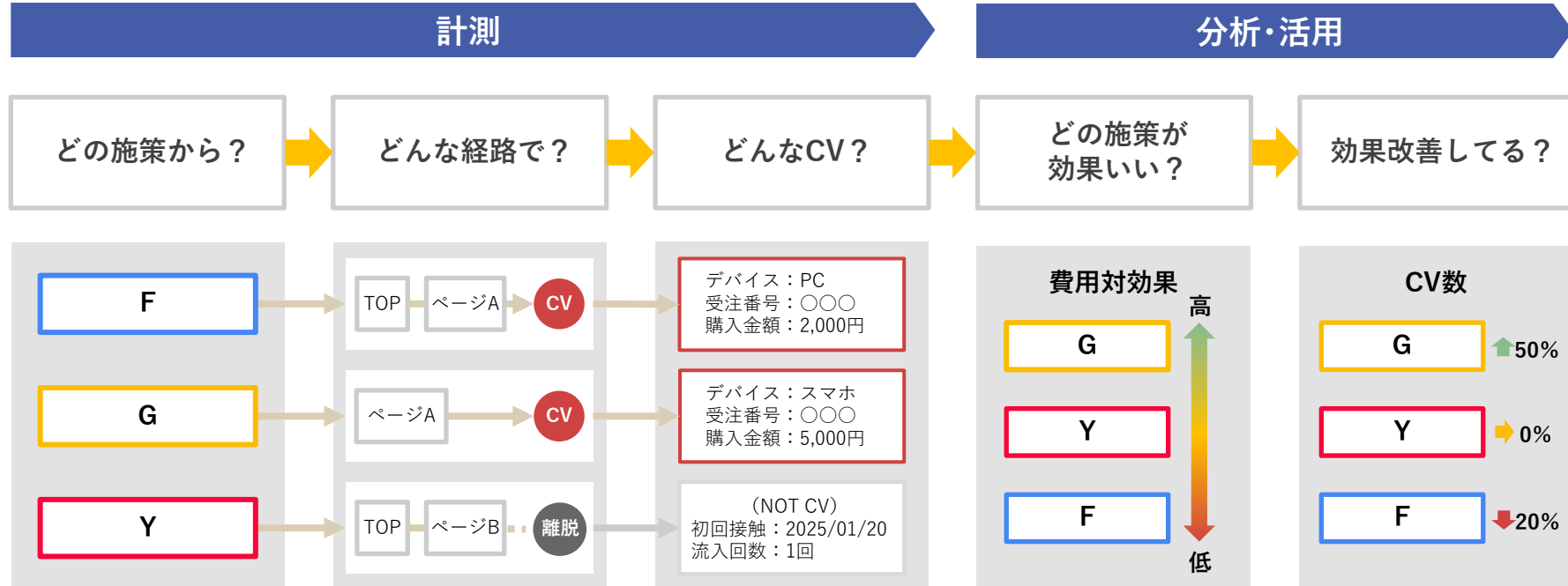
マーケティングDX支援事業

データの計測、統合・分析、活用を通して
国内企業のマーケティングDXを支援するサービスを提供



WEB広告の効果測定ツールでNo.1※

費用対効果を最大化するために、**新規顧客獲得に至る導線を計測・分析でサポート**



マーケティングにおける認知～顧客化までのプロセス・効果を可視化



広告媒体や広告代理店が示す数字を客観的かつ中立的な立場で評価可能に

※ 2024年 8月期_指定領域における市場調査 調査機関：日本マーケティングリサーチ機構



売上シェア No.1 (86.7%)

国内導入実績 No.1

EC業界導入実績 No.1

BtoB向けSaaS企業導入実績 No.1

(2024年 8月期_指定領域における市場調査 調査機関：日本マーケティングリサーチ機構)

機能面の競合比較

高い計測精度や豊富な計測機能、充実したサポート体制、媒体データを軸にした独自機能等で競合優位性を発揮

	ADEBiS.	競合A社製品※
CV計測データ	◎	○
媒体データ (媒体CV/コスト/mp)	◎	—
広告管理	◎	—
学習コスト (サポート/UI)	◎	—
ツール利用 コスト	有償	無償

※ 競合が複数存在している中で、当社がベンチマークしている無償提供企業の製品との機能比較

単品通販・人材・金融・不動産など幅広い業種・業態で多数の導入実績
WEB広告宣伝費が多い企業を中心に累計導入件数は1.1万件超



今後のサービス展開にあたり顧客基盤となる効果測定は、低単価プランと「CAPiCO」でアカウント数を拡大。その後、新SaaSの提供と人的支援サービスの強化を順次推進

① 広告効果測定

ADEBiS[®]

月額5万円の低単価プランによる
ターゲット拡大

販売
拡大

キャピコ
CAPiCO
powered by ADEBiS

ポストCookieソリューションによる
新たな顧客層を獲得

② 新SaaS

施策の選択

施策の実行

適応学習

効果測定

マーケティング
プロセス

『マーケティング施策の
効果改善サイクルを回したい』
という顧客課題をサポート

③ 人的支援サービスの強化



カスタマーサービスの
一部有料化
(個別課題に沿った対応強化へ)

『マーケティング施策の効果改善サイクルを回したい』という顧客課題をサポートする
マーケティングプロセス支援サービスをSaaS×人的支援によって提供

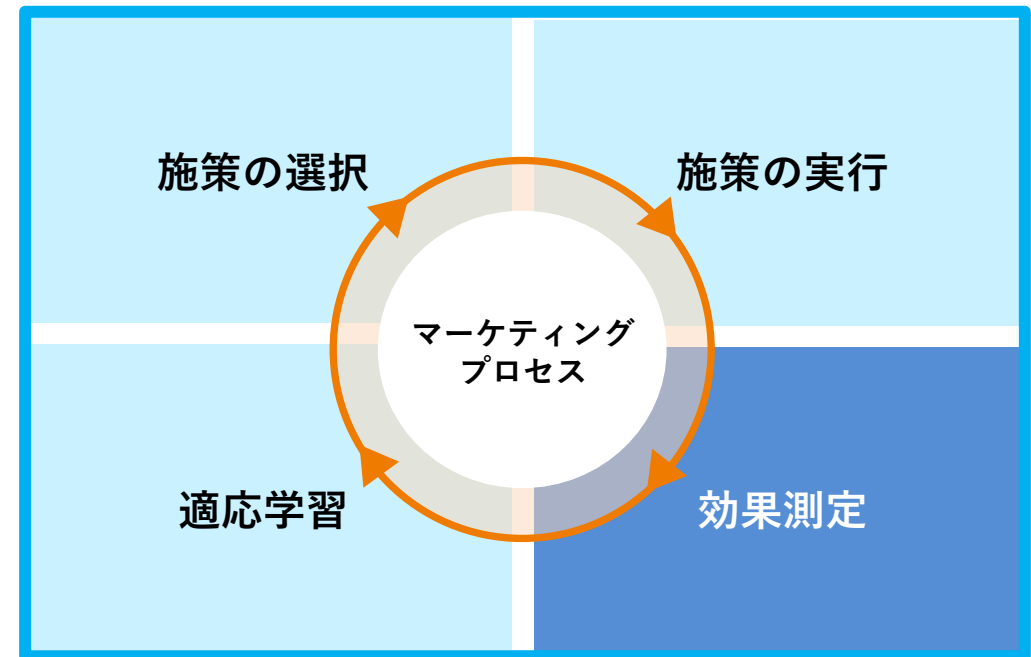
これまで

広告効果測定ができる「アドエビス」を提供



今後

顧客企業のマーケティング課題を解決する
総合的な支援サービスに進化



新SaaSの想定スケジュール

β版を無償提供中

有償化

FY25上期

FY25下期

FY26以降


想定
スケジュール
(2025年2月時点)

「アドエビス」顧客へ
β版提供拡大・
アップデート

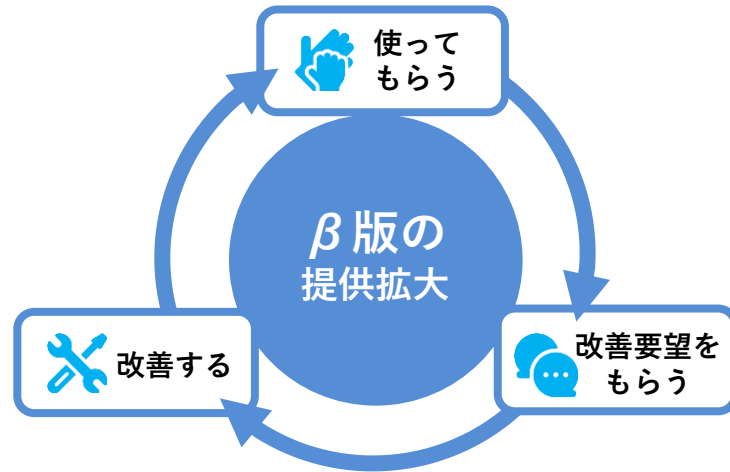
「アドエビス」顧客への
有償販売開始

「アドエビス」以外の
顧客への有償販売開始

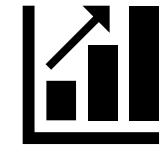
対象企業

 「アドエビス」顧客

 新規顧客

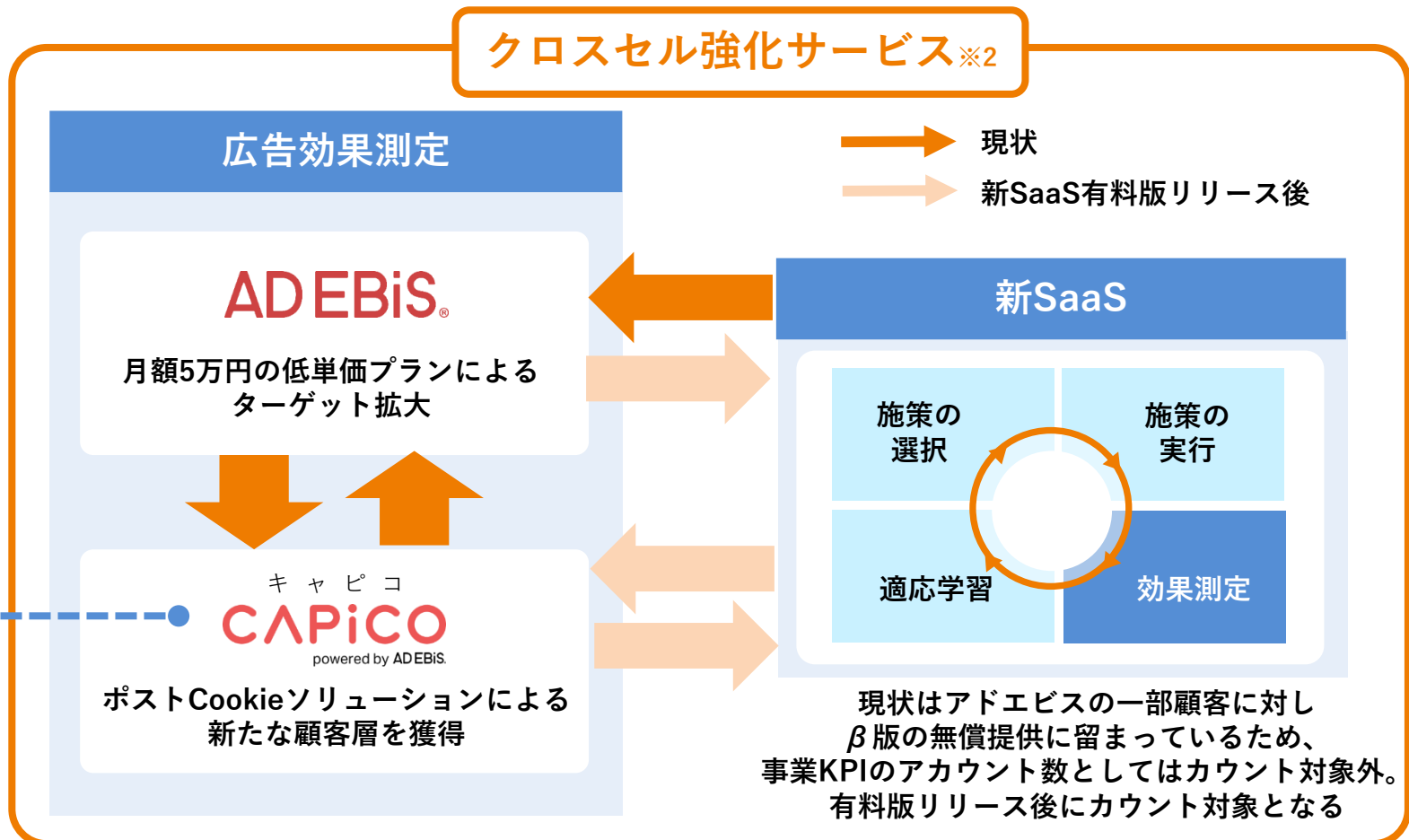
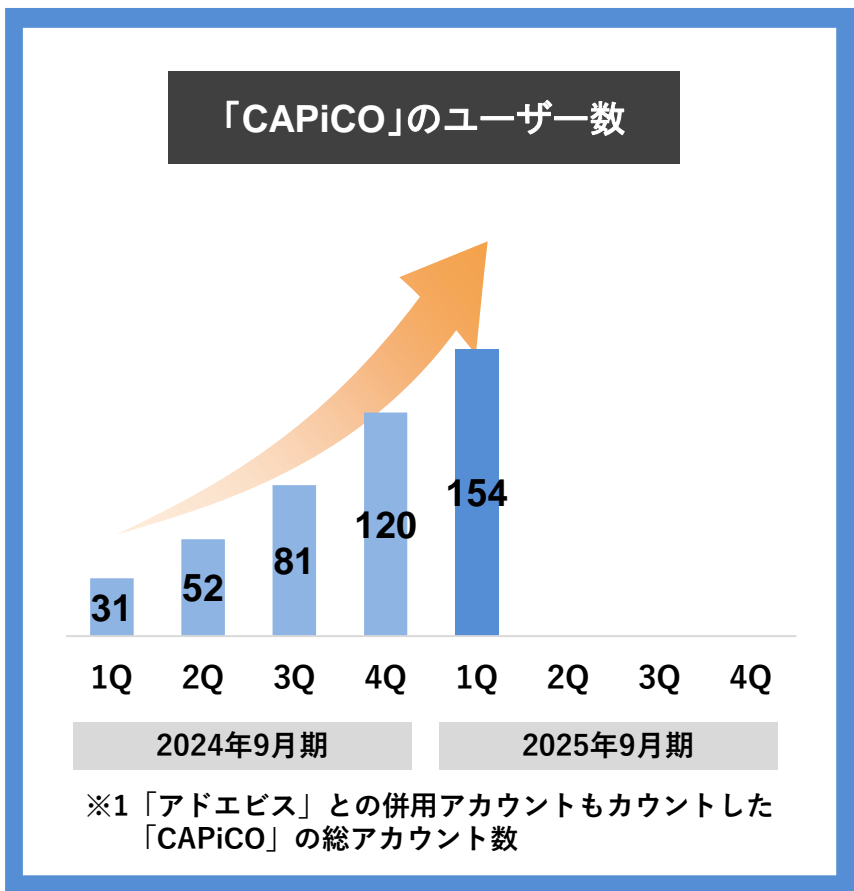


今期中の収益化
を目指す



新規顧客の獲得により
収益拡大・市場拡大
を目指していく

ドアノックツールの的な位置付けである「CAPICO」のユーザー数^{※1}が右肩上がりの推移に新SaaSの有料版リリース後、領域全体のクロスセル強化体制が整い、アカウント数の本格増へ



※2 「アドレポ」は顧客ターゲットが異なるため、クロスセル強化サービスから除外

5

業績予想・株主還元



2025年9月期 通期業績予想(2025年1月17日公表※)

ルビー・グループの連結子会社化を主因にコマース領域が売上成長を牽引し
2桁の増収増益を見込む

単位:百万円	2024年9月期	2025年9月期	前期比
	実績	通期業績予想	
売上高	3,636	4,800	+32.0%
営業利益	164	200	+21.6%
営業利益率	4.5%	4.2%	△0.3pt
経常利益	162	190	+17.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	68	100	+45.4%

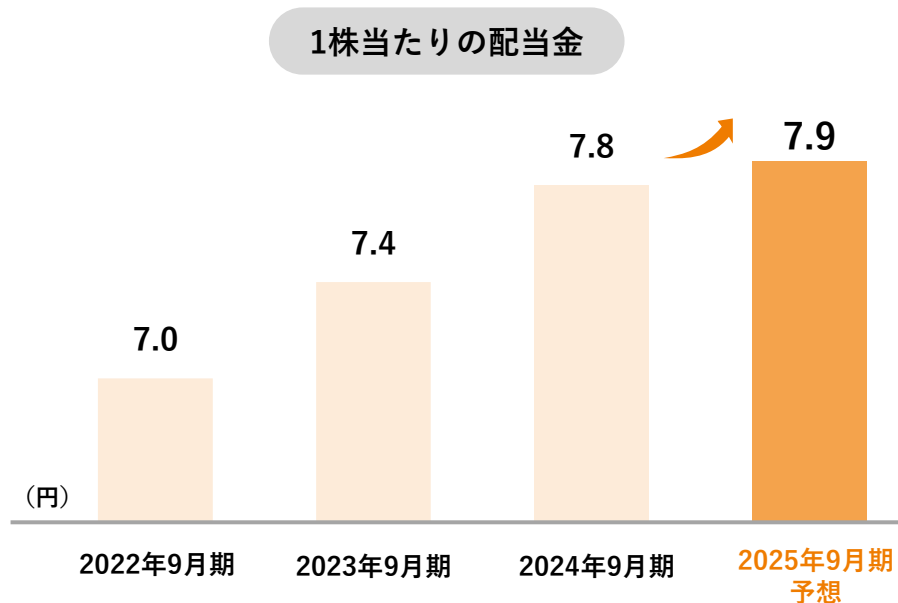
※ 当1Q～のルビー・グループの連結開始に伴い、会計方針の調整および会計処理の精査に時間を要したため、2024年11月の本決算発表時点では非開示としていた

2025年9月期 株主還元予想(2025年1月17日公表※)

配当方針DOE2.5%を維持、株主優待制度も継続
方針に則り1株当たり**期末配当金は7.9円と増配を計画**

配当

安定的かつ継続的な利益配分を行うことを基本方針として
連結株主資本配当率(DOE) 2.5%を目安に期末一括配当を実施



※ 2024年11月の本決算発表時点では、通期業績予想の非開示に伴い、配当予想額についても非開示としていた

株主優待

株主の皆様への感謝と当社事業への興味喚起を
目的に行っている株主優待制度を継続

毎年3月末及び9月末時点の株主様を対象に
年2回株主優待を実施

保有株式数	贈呈金額
100株以上 (1単元以上)	Amazonギフト券 1,000円分

※基準日は3月末日、9月末日

補足資料



会社概要

社名	:	株式会社イルグルム
設立	:	2001年6月4日
資本金	:	318百万円（2024年12月31日現在）
代表者	:	岩田 進
従業員数	:	375人（グループ連結／2024年12月31日現在）※
所在地	:	【大阪本社】〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田2-2-22 ハービスENTオフィスタワー8F 【東京本社】〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-2-1 X-PRESS有楽町12F
事業内容	:	マーケティングDX支援事業 コマース支援事業
子会社	:	株式会社イーシーキューブ 株式会社スプー 株式会社トピカ ファーエンドテクノロジー株式会社 ルビー・グループ株式会社 YRGLM VIETNAM COMPANY LIMITED（ベトナムホーチミンシティ）

※ ルビー・グループ、及びその子会社含む従業員数

グループ構成

マーケティングDX支援事業 (Marketing)



株式会社イルグルム

ADEBiS®

CAPiCO
powered by ADEBiS



ADHOOP
アドフープ

Target Push

新規事業開発で連携

連結子会社

Spoo! inc.

TOPICA

FAR END
Technologies

開発業務の一部を委託

連結子会社

YRGLM VIETNAM
COMPANY LIMITED



YRGLM VIETNAM CO., LTD.

コマース支援事業 (Commerce)

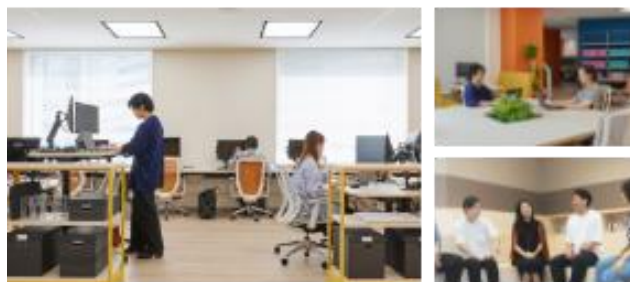
連結子会社

EC|CUBE®

RUBYGROUPE
DIGITAL SOLUTIONS FOR FASHION BRANDS

開発業務の一部を委託

個性と多様性を尊重し、しなやかに変化する組織



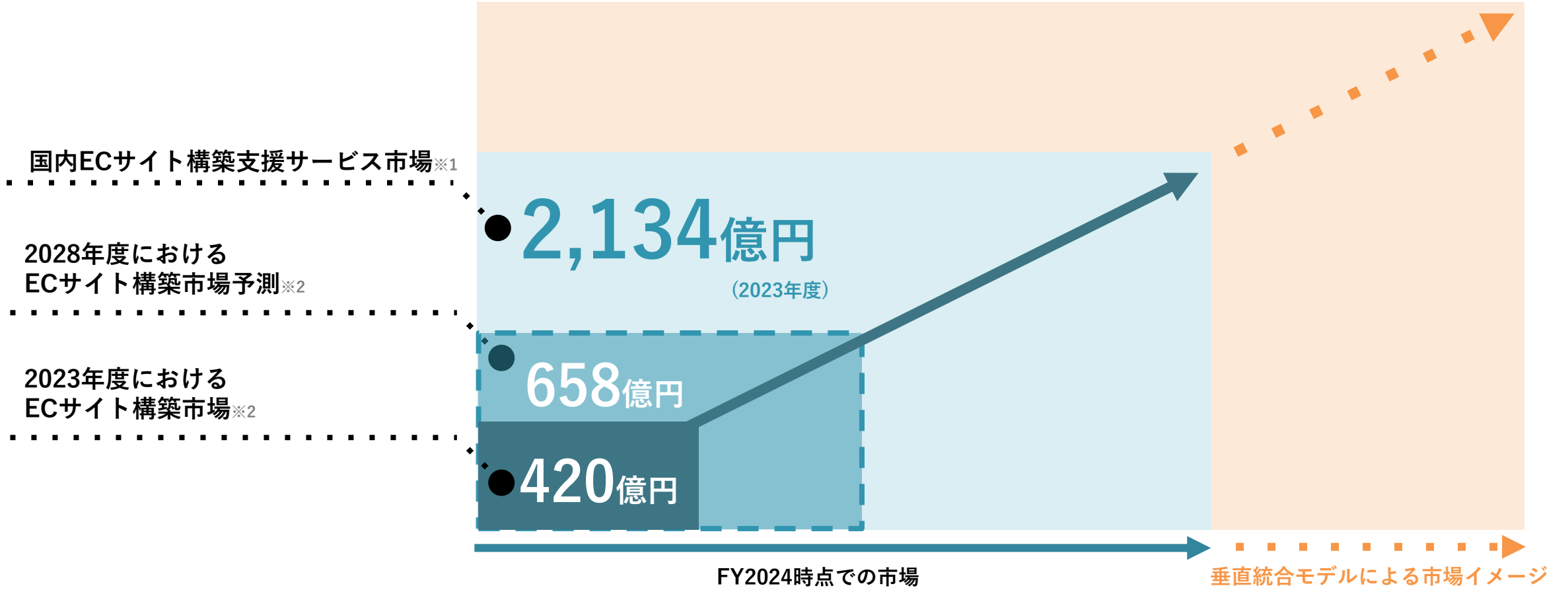
「多様な働き方を支援する環境整備」と
「コミュニケーション強化」に注力

2025年版「働きがいのある会社」認定において
「働きがい認定企業」に選出

M&Aを継続的に実施しながら事業領域を拡大

時期	組織/事業名	買収形態	買収時の狙い	現状
2015.9	彩	出資	開発リソースの確保	マーケティングプロセス
2018.10	アドレポ	事業買収	広告代理店の業務支援の強化	マーケティングプロセス
2020.1	ADPLAN	事業買収	効果測定事業シェア拡大	マーケティングプロセス
2020.12	スプー	株式譲渡	1.マーケティング周辺領域の事業探索 2.クリエイティブプラットフォーム構想におけるノウハウ及び人財獲得	インキュベーション
2021.7	トピカ	株式譲渡	1.マーケティング周辺領域の事業探索 2.動画・SNSマーケティングのノウハウ及び人財獲得	インキュベーション
2022.1	ファーエンドテクノロジー	株式譲渡	1.マーケティング周辺領域の事業探索 2.プロセス支援の事業化を見据えたノウハウ及び人財獲得	インキュベーション
2022.5	ボクブロック	株式譲渡	コマース垂直統合戦略を実現するため、構築・運用のノウハウおよび人財獲得	コマース
2024.9	ルビー・グループ	株式譲渡	コマース垂直統合戦略を実現するため、ECサイト運営事業のノウハウおよび人財獲得	コマース

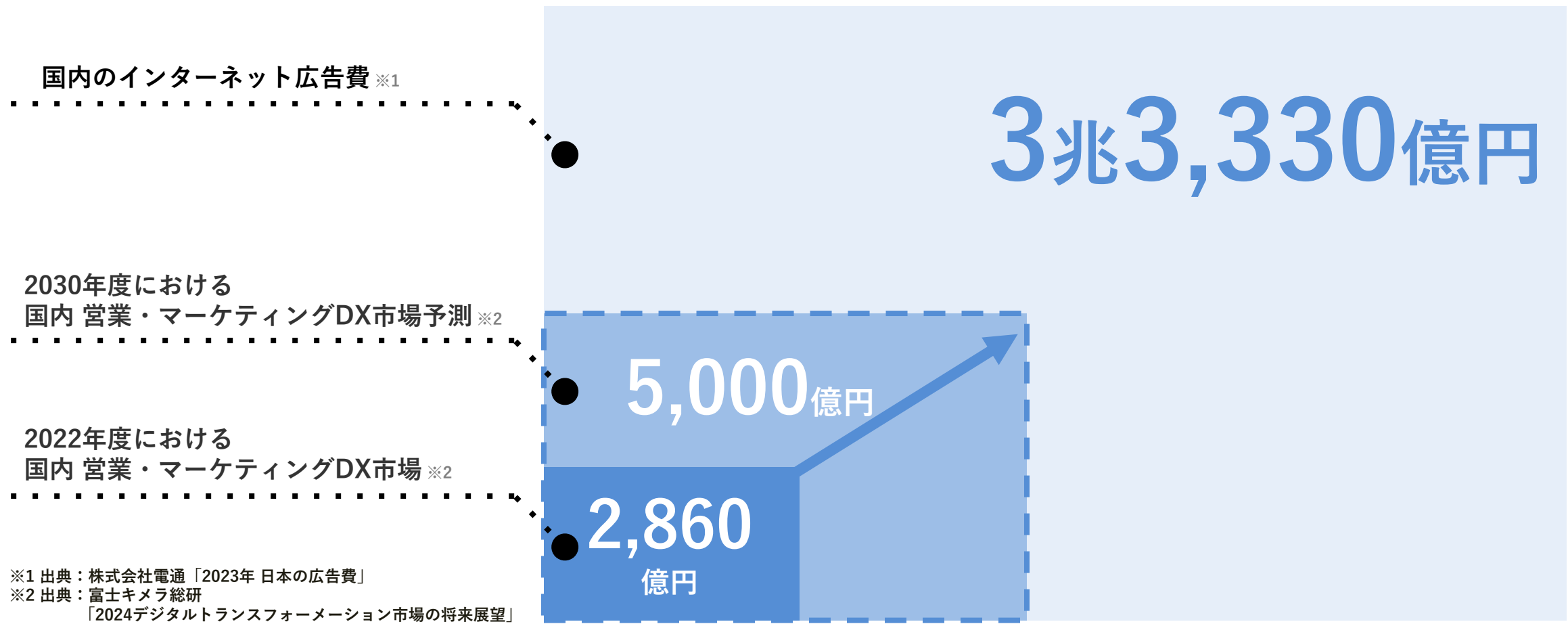
垂直統合モデルの軸となる構築運用フェーズの市場は2,134 億円(2023年度)に拡大
集客・物流を加えた垂直統合モデルの市場規模は未知数



※1 出典：株式会社矢野経済研究所「ECサイト構築支援サービス市場に関する調査(2024年)」(2024年9月3日発表)、パッケージ型、クラウド型(ASP,SaaS等)、スクラッチ型サービスが対象

※2 出典：富士キメラ総研「ソフトウェアビジネス新市場 2024年版」、パッケージ型、SaaS型サービスが対象

マーケティングDXを支援する総合的なソリューション提供によりターゲット市場は2,860億円
DXニーズの高まりを受け市場はさらに拡大。市場の拡大を追い風に更なる成長を目指す



※1 出典：株式会社電通「2023年 日本の広告費」
※2 出典：富士キメラ総研「2024デジタルトランスフォーメーション市場の将来展望」

主要サービスにおける競合状況・顧客ターゲット

競合状況

当社の顧客ターゲット

コマース
(垂直統合モデル)

①プラットフォーム、②ECサイト構築、
③ECサイト運用、④集客、
⑤物流の全てを提供している
競合の認識は無し
(④集客までを支援している
パッケージベンダーは存在)

垂直統合モデルの加速に伴い、
これまで：中規模企業
↓
今後：大企業
にメインターゲットを変更

マーケティングプロセス

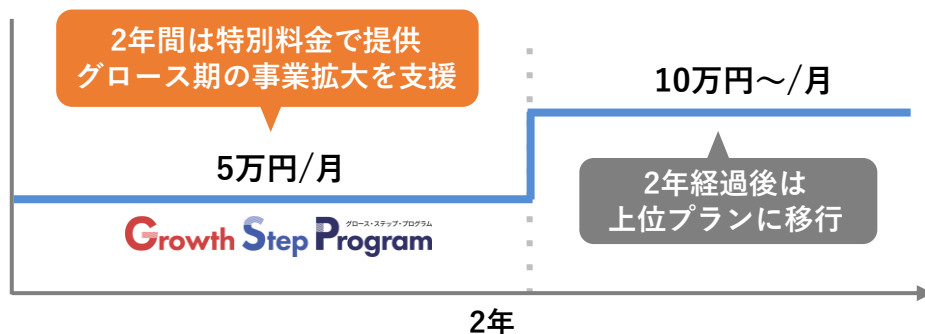
ADEBiS.	新サービス
<p>競合は複数存在も 他社にはない 豊富な機能を持ち、 広告効果測定ツールの 売上シェアトップ※</p>	<p>— (有料版リリース後、 SaaS+人的支援による マーケティングプロセス支援 サービスは競合無しの認識)</p>
<p>従来のメインターゲットは 月間広告出稿量が 300万円以上 ～1億円未満の企業 + 低単価プラン「GSP」は 広告出稿量の少ない グロース期の企業が対象</p>	<p>— (有料版リリース前のため)</p>

※2024年 8月期_指定領域における市場調査 調査機関：日本マーケティングリサーチ機構

「アドエビス」の新規顧客向け・低単価プラン 2023年7月リリース「Growth Step Program(GSP)」の受注が拡大

「Growth Step Program」

広告出稿量の少ないグロース期の企業を対象に
新規契約から2年間利用できる特別プラン

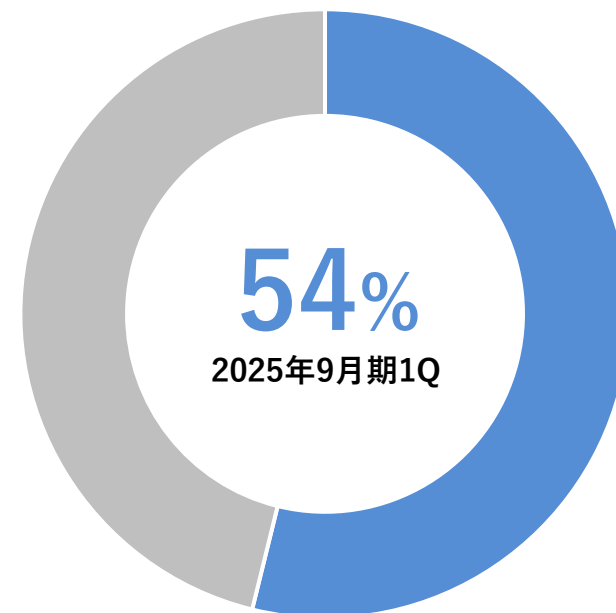


— 主な特徴 —

- ✓ 「アドエビス」の基本機能をお得な特別価格で提供
- ✓ 充実のサポートサービスで計測設定と活用を支援

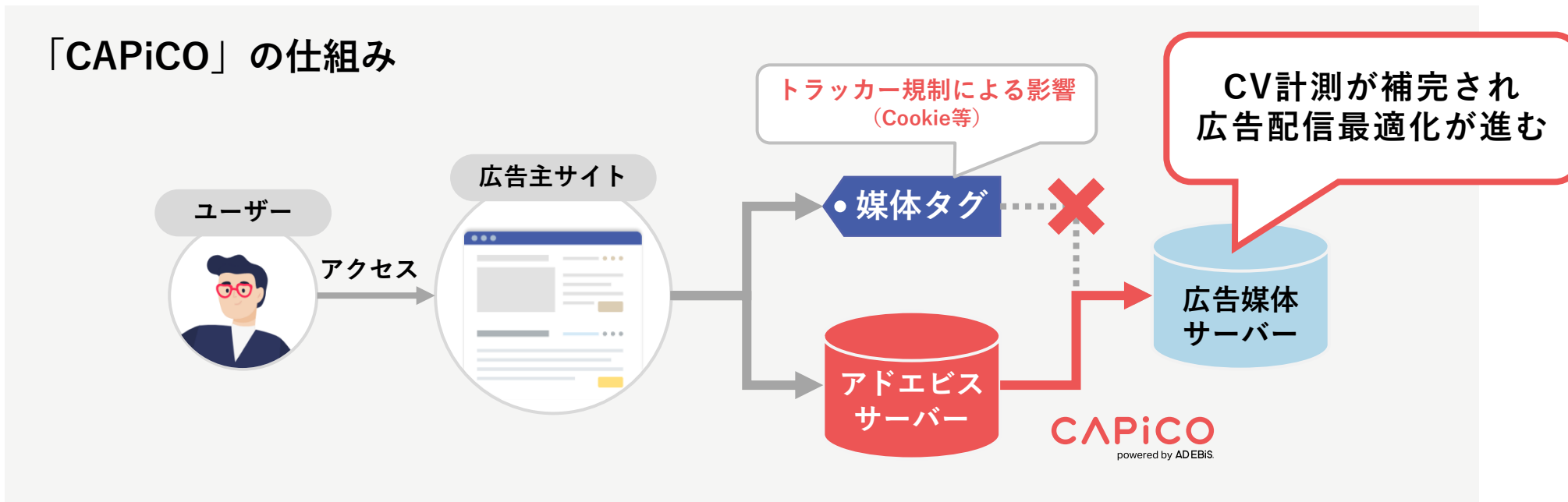
新規受注件数におけるGSPの割合

新規受注件数におけるGSPの割合は54%



「CAPICO」 サービス概要

トラッカー制限による広告媒体のCV計測の欠損を補うために、
ワンタグで簡易に各媒体へデータを送信するCAPIツール



「CAPICO」の3つの特徴

1 設定負荷を軽減！
かんたんなUI

2 シンプルな価格で
追加費用なし！

3 「アドエビス」の
計測基盤で安心！

広告レポート自動化ツール「アドレポ」を提供 広告運用業務の効率化により広告代理店ビジネスのDX推進に貢献

広告代理店における課題

月末月初に作業が集中

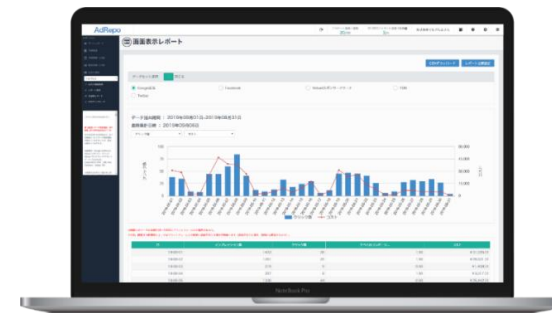
案件数と媒体数に比例して工数が増加

手作業による人的ミスの発生

レポート集計に追われ、
改善案の考察時間が取れない



広告レポート自動化ツール「アドレポ」



レポート業務の全プロセスを効率化

データ
集計

データ
整形

考察

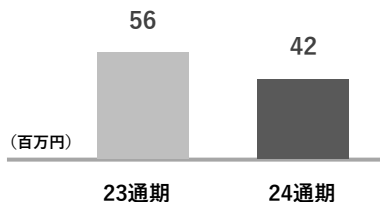
提出

サービス※2



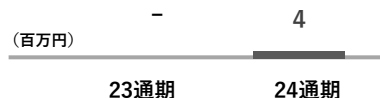
(2020年5月~)

- ・マーケティング特化型マッチングサービス
- ・パートナー企業の新規顧客獲得のDX化を支援



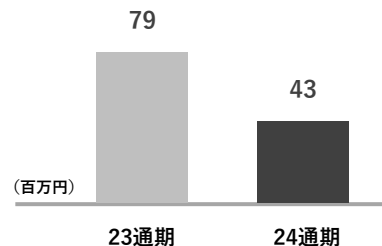
(2024年7月~)

- ・リテンションマーケティングツール
- ・web通知機能を活用した新規顧客獲得を支援



(2020年12月~)

- ・Webサイト/コンテンツの企画・制作
- ・クリエイティブを用いた課題解決を支援

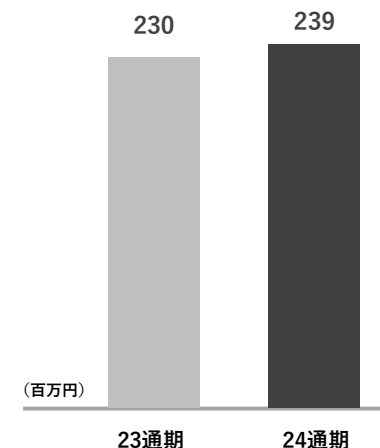


子会社



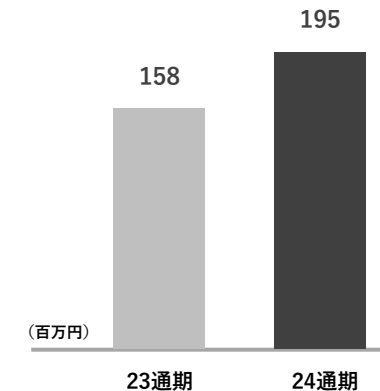
(2021年7月~)

- ・動画コンテンツの制作/運用
- ・動画とSNSの活用によるデジタルマーケティング支援



(2022年2月~)

- ・プロジェクト管理ツール「My Redmine」の提供
- ・効率的なプロジェクトの管理を支援



※1 インキュベーション領域のサービス・子会社それぞれの売上高推移は、前期実績と前々期実績の比較を参考情報扱いで記載

※2 ezcxは2024年5月にクローズ



本資料の取り扱いについて

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述等は、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ経済動向及び市場環境や当社の関連する業界動向、その他内部・外部要因等により変動することがあります。従いまして、実際の業績が本資料に記載されている将来の見通しに関する記述等と異なるリスクや不確実性がありますことを、予めご了承ください。

進捗状況を含む事業計画及び成長可能性に関する事項の次回更新については、2025年9月期の通期決算発表（11月）で開示することを予定しております。

また、経営指標の進捗状況については、四半期決算における補足説明資料において開示することを予定しております。